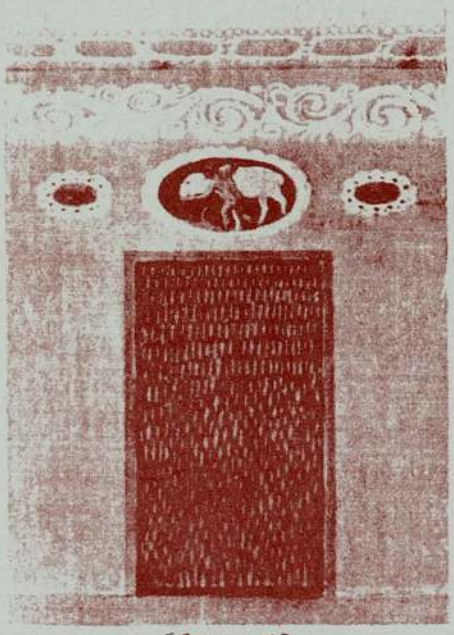
建築ト社會

第四輯　第十二号



〔和　平〕

大正十年十二月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク
地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス
會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス
會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス
贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス
一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家
二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家
三　特別贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル種ノ技術家又ハ事業家
四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者
贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス
終身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
普通贊助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス
會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得
名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク
終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ
前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得
前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　除會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）
會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス
理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス
理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得
理事長ハ理事之ヲ互選ス
役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス
理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク
一　主記　一名
二　主計　一名
三　編輯　三名
四　編輯補　若干名
五　書記　若干名
主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス
編輯補ハ編輯ノ冒ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス
書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス
編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス
書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク
委員會及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス
理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスコトヲ得
委員長ハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス
委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス
委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十六條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得
例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ每秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ
一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　決議事項ノ實行促進
四　會誌ノ發刊
五　建築ニ關スル圖書ノ刊行
六　建築ニ關スル講演會ノ開催
七　建築ニ關スル展覽會ノ公開
八　建築ニ關スル視察
九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十　理想的建築ノ計畫
十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス
但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス
一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス
會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ
特別贊助員ハ特別贊助員會年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助員會年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ
但六圓以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス
本會ノ財產價額價務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス
本會ノ財產價額價務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



日本エレベーター製造株式會社

大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

營業種目

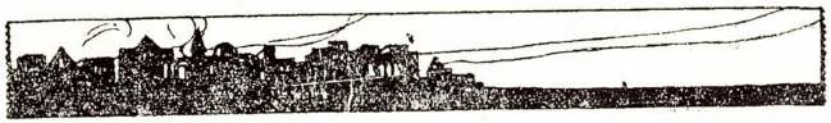
エレベーター、リフト
コンベヤー
（東松式）捲上機械クレエン
架空索道及諸機械
右設計及製作
試運轉各種機械
高塔保能安實驗
設置裝置

出張所　東京市丸之內東京驛前海上ビルデング六階、六一九號、六二十號室　電話本局丸之內九六〇番二二〇二番

特約販賣店　東京市麹町區永樂町　高田商會本支店出張所

代理店　大連市山縣通百番地　日米公司　電話二二七〇・二〇四五番

代理店　朝鮮京城府長谷川町八十五番地　日米公司　電話二五三〇番



建築と社會　第四輯第十二號目次

▲口繪……（三色版）
○「平和」（寫眞版）
○白木屋呉服店大阪支店（寫眞版）
○野村銀行北濱支店ビルデイング（寫眞版）

〔卷頭〕
○歳往く……

〔論說〕
○住宅改善の要諦……日本建築協會理事長　理事工學士　葛野壯一郎……二
○建築家に提供すべき二つの問題……大阪電氣軌道株式會社々長　大槻龍治……六
○建築上の防火的施設に就て……共同火災保險株式會社專務取締役　田所美治……一〇
○設樂氏の「實費計算式請負制度」を讀みて……終身贊助員　田中譲……一四
○都會生活から建築の外觀への一考察……會員　伊藤正文……一七

〔研究〕
○デパートメント・ストアーに就て……會員　建築士　津田鑿……二三
○鉛製ペイント排斥說補遺……工學博士　細木松之介……二八

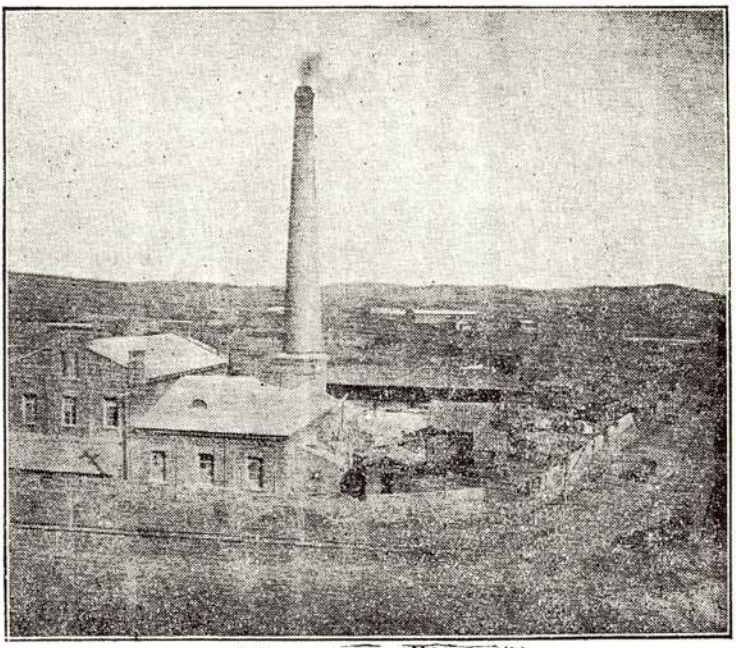
〔都市〕



○都市計畫に於ける事象(三)……ウオルター・デイ・ムウデイ著
——市加古市の都市計畫に就て——……Z Y 生譯……三二
○大阪市に於ける住家の趨勢……迂愚郊邨……四二
〔住　宅〕
○高師の濱に浮き出た桃源鄉「キヤラバシ園」……郊邨夢人……四九
〔講　壇〕
○煉瓦に就て(畢)……工學博士……大熊喜邦……五七
○木材に就て(畢)……會員　工學士……松井清足……五九
〔資　料〕
○世界三大都市之制度(畢)……法學マスター・オヴ・アーツ……石川東一……六三
〔漫　錄〕
○渡歐日記より(三)……會員　工學士……置鹽章……六七
○和洋折衷乎歐風直寫乎(畢)……會員　工學士……園部文雄……七三
○私共は奈何に住ひましょう?
——西崎藥學博士夫人綾子——(畫家「松魚」夫人)——田村松枝——……七九
東京女子師範學校敎授高桑文子——
○病院を設計する人に望む……東京……S T 生……八二
□時　報　□會　報

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明



顧問技師　工學士　雨宮春雄

相談役　前野芳造

營業目課

滿州產

青色大理石、黑色大理石
鹿兒島產白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシユーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

（滿洲工場）

耐火リノリウム

（專賣特許出願中）

鋪床材料
耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑

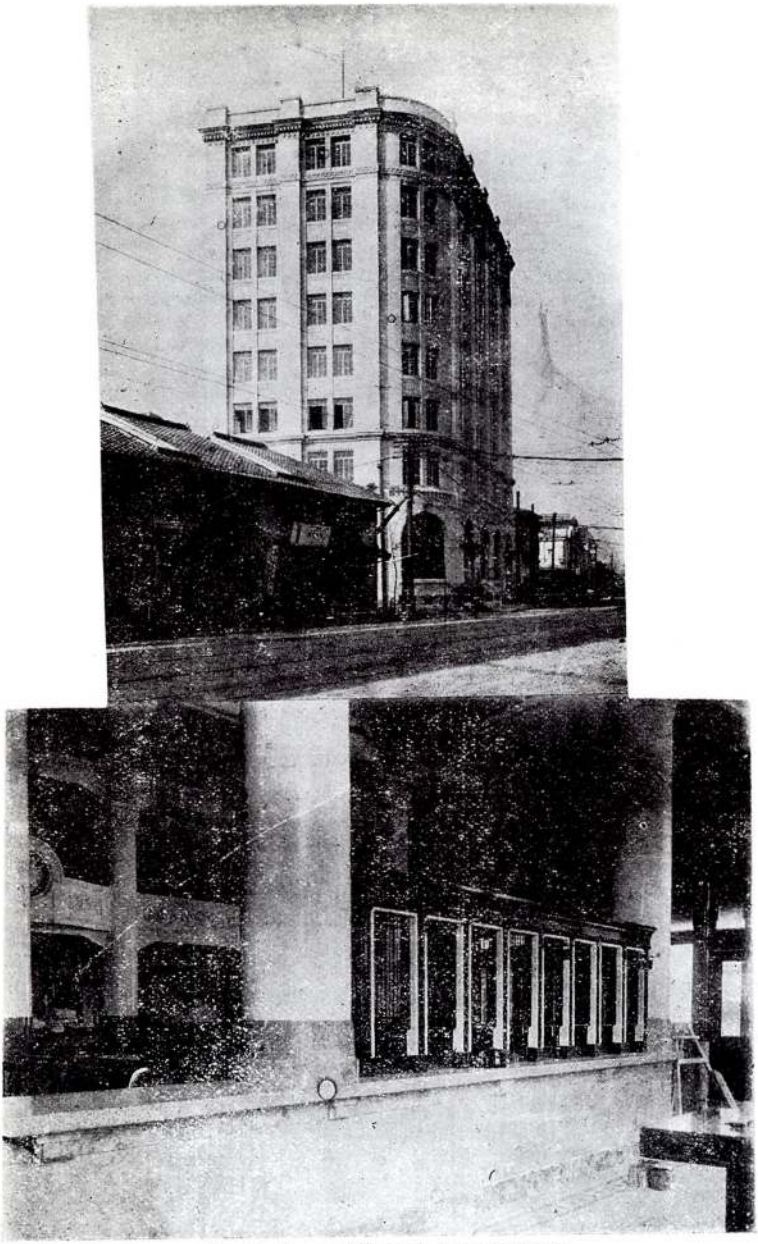
ボースイ

（專賣特許）

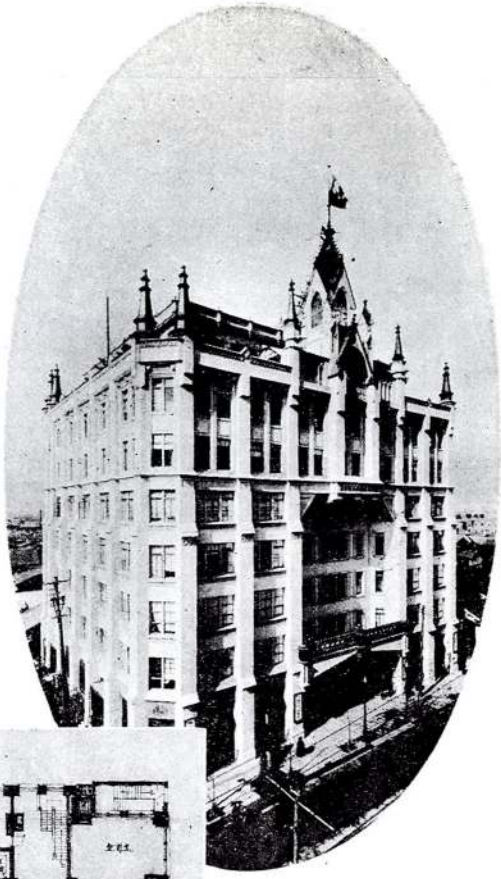
品質內外品ニ優リ價格低廉
滿蒙化學研究所代理店
大阪市北區南安治川一丁目十三番地

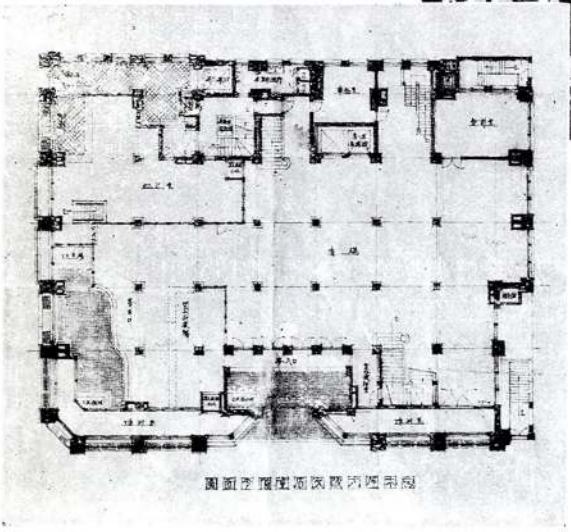
大阪耐火リノリウム工業合資會社

電話西（營業用）四五九
（長）二五五四
三六三三



野村銀行北濱支店ビルデイング





白木屋呉服店大阪支店

第二回改良住宅懸賞圖案當選者氏名左ノ如ク決定セリ

	當選者氏名	住所
第一等	中村一秀	大阪市南區九郎右衛門町二五一番邸
第二等	山本辰次郎	北河内郡守口町字濱井四六四
第三等第一席	須藤員雄	大阪市東區今橋二丁目茂木ビルヂング淵邊建築事務所
第三等第二席	小川安一郎	大阪市南區天王寺松ケ鼻町五四七八ノ一
第四等第一席	島本四郎	神戸市熊内町竹中方
第四等第二席	野口昌三	福岡市東唐人町宮崎平七方
第四等第三席	首藤重吉	愛媛縣周桑郡小松町甲九番地
第五等第一席	小西一良	大阪市立工業學校內
第五等第二席	伊藤次郎	大阪市南區天王寺茶臼山町七九二番地
第五等第三席	增山新平	大阪市北區西野田大開町八百十四番地

大正十年十二月

日本建築協會



歳往く

ゆく年の惜しくも
あるかなますかゞみ
みるかげさへに
くれぬとおもへば

大正第十次の歳時、亦、茲に往かむとす。歳月の轉過は、當に、悠久劫遠の進程それ自躰なり。乾坤球上に、現實の「生」を寄する我等、斯の永劫無窮の展移と、不斷連亘の過程に、自ら何ものを貢献し、而して、久遠に自ら生くるの用意ありやを省察せざる可からず。現實なる凡ての問題、就中我建築界の諸問題も、所詮は、「生」の完成を期するの問題なり。建築科學も、建築政策も、凡ては斯の深みある思想の奥低より汎まれざる可からず斯くて、我等は、歳往くとも、只、輝ぐ「希望」ありて、徒爾たる「憾み」莫きを期せずむばあらず今、將に過ぎなむとする大正十年の既往に顧みて其想惟感慨の果た奈何にあるとも、我等は、只有るのみ、希望！と省察！と。（郊）



論說

住宅改善の要諦

日本建築協會
理事長　理事　工學士　葛野壯一郎

住宅餓鬼、即ち數に於ける住宅不足の緩和が、公私何れの施設も遲々として運ばず、依然到る處『家無し』の嘆聲を聞くと同じく、質に於ける住宅改善の方策が、其根底に理想と抱負を缺ぎ、何時までも五里霧中にぐらついて居るのは遺憾至極である。現在行はれ或は將來行はる可く豫想せらるる多數改良住宅なるものに就て觀るに、其樣式外觀は、兎に角稍新人の意を迎ふるに足るとしても、其内容に至つては甚だ敬服されないものが頗る多く、吾人をして、這は改善に非ずして寧ろ改惡に非ずやを思はしむる物が、事實に於て多い樣である。單に椽側だの床の間を廢し、雨戸に換ゆるに不完全な引違ひの洋式窓を以てする位の事が改良であるならば、改良は寔に容易の事ではあるが、それでは改善か改惡か、寧ろ疑を以てす可きもので、斯の如き改良住宅の生活は、向上に非ずして寧ろ墮落だ。是は單なる一例に過ぎないが、私は床の間を廢すると云ふよりも如何に是れを活用し、椽側を止めるといふよりも如何に

是れを利用す可きかが問題である。殊に近來著しい家事勞働、即ち女中の不足と云ふよりは皆無狀態が中流家庭の臺所に可成りの不安を感ぜしめて居るのであるが、此方面からする臺所の改善の如きは、眞先に解決を要する問題ではあるまいか。奥さんでもお嬢さんでも、自ら小奇麗にまた簡便に炊事を處理し得る臺所、現代の婦人社會が、眞面目に斯の要求に對する解決を迫らないのが私には寧ろ不思議でならない。婦人雜誌等に散見する臺所の改良意見の如きものはあるには有つても、其多くは時代の理解を缺ぎ問題の根底にふれて居らない。また實行案としても甚だ覺束ない種類のものが多いのである。

廣義に云へば、住宅改善の要諦は、土地其ものの整備から出發しなければならぬ。交通の便利であり道路の整備であり、上水下水の完備であり、瓦斯電燈電話其他家庭用動力の安價な供給であり、何れにしても便利で愉快、衛生的で而も經濟的な凡ての裝置が、自由に且つ最完全に得らるる事から出發しなければ嘘だ　家は從で寧ろ土地が主だ。市内市外を論せず、住宅地其物の整備が無い限りは、完全な改良住宅は到底求められない。樣式一部分的構造如何の如きは素より末技に屬す可きもので、完全な家は必ず文明的に處理されたる完全なる土地にあつて初めて實現さる可きもので無ければならぬ。斯の點に就て現在の住宅地を觀察するならば、市の内外を通じて、全然絶望せざるを得ないのは遺憾ではないか。市街住宅地にしても、上水だの瓦斯電燈は如何にか間に合ふとしても、道路や下水が現在の如き狀態では、厠一つの始末にも非常な手數と工費を要し、それで完全なものは出來ないのである。市外居住地に至つては、其第一の關門とも稱す可き、市と郊外との交通輸送の現狀が既に問題である。一臺の自動車すら完全に走らすだけの道路施設を缺いで居る事は勿論、電車による唯一の交通路が、命がけのものである事を記憶しなければならぬ。市外地の年々の發展に、電車の輸送力が常に遲れて行く結果、吾々は日々『人か物か』を疑はしめる樣な其不眞面目な輸送法によつて、漸く百人内外　定員を有する車躰に百五十人乃至二百人も詰め込んで、其れで平氣に所定の料金を徵して居る當業者の良心の存在

を疑ふと共に、是れを美つて眺めて居る當局の呑氣さ加減を私は了解に苦しむのである。試に朝の八時九時、或は夕の五時六時の是等郊外電車の停留所の困難を觀よ、潮の如く入口に押し寄せて先を爭ふ乘客の奮闘は、世界何處の文明國でも觀られない珍圖で、婦人や小供は側にも寄り附けない。乘客の無節制を云ふ人があるが、現狀の如き狹い不足勝の座席を提供して、それで乘客の無節制を云ふのは間違いだ。事實先を爭はざるを得ないのである。奮闘しなければ乘れないのである。三十分でも一時間でも凝ッとただ待たなければならぬのである。百人定員の乘客に二百人も詰め込む事が危險で無くて何であらう。命掛けだと云つても決して過言でないと信ずる。斯くの如き危險と命懸けを冒してまでも、郊外生活を餘義なくさるる我大阪市は、文明の悲哀を遺憾なく現出するもので、私は衷心切に哀まざるをな得ないのである。

水が人間生活に必要な事は云ふ迄もないが、現在住宅地として提供せらるるものに、上水道の賞揚す可き裝置のあるものは殆んどない。淺い地下水が飲料として甚だ危險である事は勿論、少しく給水裝置を完全にするためには、水揚裝置だの貯水タンクの、一々戸毎に面倒な設備を要する不便不經濟は決して小さな問題ではあるまいと思ふ。下水設備に至つては、全然無責任の遣ッ放しで、勝手元の汚水すら滿足に處理に困る樣な事では、問題にはならないではないか。瓦斯供給のある處は殆んどなく、電燈だけは何處にも普及して居るが、料金の割合には暗くて、家庭用燈火以外の利用等は思も寄らない。單なる見晴しや風景を呼物にして、何等文明的住宅地としての施設の無い不備な土地を、一坪幾十圓といふ高價、或る意味から云へば世界無類の高價を以て提供せらるるに至つては沙汰の限りで、是れを默つて買取る人は勝手自由だとしても、斯くの如き事實が我邦住宅改善事業の將來に、非常な障害を爲して居る事を吾々は省慮しなければならぬ。

一般に私は、住居に對する眞面目な考慮が未だ〳〵足りない事を思ふ。專問の建築家は勿論、一般に

も生活が日に〳〵行き詰つて、如何にしても此儘押し通して行けなくなつて居るにも拘はらず、割合に呑氣で、如何にも眞面目に考えて居る人が、私は甚だ少ない樣に思はれてならない。世間に相當物識りだとされて居る處の、可成り分つた筈の諸君の意見に聽いても、頗る上は調子の不徹底極まるものなるに至つては、悲觀せざるを得ないではないか。

一言にして云へば、生活改善は衣食住の時代適應である。現代文明の恩澤に遺憾なく浴し、是を享樂すると共に、更らにヨリ良き文明を指導す可き生活である。飮食にしても、衣服調度にしても、住居にしても、舊い習慣で時代に適應しないものは、ドシ〳〵改めて行けば宜いではないか。無理に理屈をつけて疊を固守するか如きは愚の骨頂である。老人や婦人に困るといふが、それは其老人や婦人が時代に適應しないからで、無理から其に妥協する必要は無いではないか。老人を尊重するのは決して惡い事ではないが、是を優待するには自ら他に方法のある事を知れば宜いのである。婦人の進歩しない事も、生活改善の上には大きな障害である。思ひ切つた改良案が、奥さんのお手元まで行くと自然沙汰止みになる樣な事を度々吾々は經驗するが、斯る點にしては、是非とも世の思慮ある婦人の一考を煩し度いのである。改造を直ちに洋式だと誤解してはいけない。東洋人でも古代から椅子生活を常習として來たものもあるのである。單なる外觀や形式だけの問題は怎うでも宜いではないか。和風洋風孰れにしても好きなものを造れば宜ろしい。バンガローも組立家屋も試みる可きものはドシ〳〵試みるが宜いではないか要は、如何にして時代に適應す可きか、が中心問題となれば宜いのである。

繰り返していふ。住宅改善は土地そのものの整備を以て出發點とする。交通の便利て有り、道路で有り、上下水道であり、瓦斯電燈及家庭用動力の安價な提供である。斯の出發點をあやまつたる經營施設に就て、改良の實を求める事は元々大きな問題であらねばならぬ。私は現在市の内外に於る多數住宅地の現狀に觀て、我住宅改善事業の將來を想ふ時、『日は暮れ途遠し』の嘆を發せざるを得ないのである(完)

建築家に提供すべき二つの問題

大阪電氣軌道
株式會社社長
大槻龍治

△世には、兩棲動物といふものがある。是は人も識つてゐる通りに、水にも棲み得れば、陸にも棲み得る、といふ、謂はば居住生活には頗る重寶な動物である。現在、私共の居住生活を徴象した處の『家』又は『住宅』といふものに就ては、西洋式とか、西洋と日本の合ひの子式とか、或は純日本式を保守せむとする豪傑もあるが、兎も角、今は惱ましい問題に臨むでゐるものの一つは、私共日本人としての住宅問題である。そして、是を怎う解決すべきか、といふ事になれば、私は、件の『兩棲動物式』こそ、今の處斯の過渡期に適ふた樣式ではあるまいかと想ふ。

△私の所謂『兩棲動物式』とは、一言にして竭さば西洋式な居住にも、又は日本在來の儘な住居にも適するように構造することである。

△と、申して、何も、洋館と日本屋を拵へといふ意味ではない。即ち、縱むば洋風に建築するにしても、場合によりては、容易に其室の敷物を取り除けて、其處へ疊を持つて行ける樣に成し、或は其反對に、日本間の構造と成つてゐても、其敷物と椅子とテーブルを持つて行けば、西洋式の生活を味ひ得る、といふ構造に爲たらば怎んなものであらうか。

△そうなると、西洋式な居住と謂つたとて、室内の日本式構造を毀つて、全然西洋流にするのではなく、日本式な室内の構造を何處迄も生かして、順應させて行き度いのである。茲に於て、問題は在來の日本式構造を何處迄改作したら可いか、そして其改造されたものに、依然日本趣味を保たしむるには奈何にしたら可いか、是ぢ、建築家の上

に懸つてゐる處の重要な問題であらねばならぬ。

△例へば、日本室を西洋風に使ふ場合、日本の障子を洋式の硝子窓にでも變へれば、斯の一事で既に日本趣味の大半を殺されて了ふ。仍で、斯る場合に、從來の障子の腰板位を壁と成し、其上へ障子を嵌める、といふような構造にするのも、其一とつである。其他、方法は怎うにでもならうと想はれるが、其處は、建築家の研究に俟つ處である。

△要するに、少面積を成るべく巧妙に能率的に使つて、一つの建物即ち幾つか有せる室を、西洋式にも日本式にも、僅かな手數で住まい得るよう兩棲式に遣り度いのである。廣い處へ幾つかの室を充分に設けての事ならば、問題は自ら異つて來るが、從來の日本住宅のような、無闇と横に許り擴がつて、地積を無能率に使ひ、隨つて、室其ものも餘り使はないものゝ多い傾向のあるのは、最早整理さるべき時期である。故に、問題は少數な室隨つて少地積を巧みに使つて、容易に西洋式生活も出來得れば、日本在來の生活も出來得るといふのが、住宅改良問題の楔子ではあるまいか。

△そういふ住宅の素人觀としては、吾々の考へも左る事ながら、一面に於ては、少くとも、主婦達の婦人としての考へを、重要な意味に於て參酌すべきであらうと想ふ。居住の實際問題としては、其住宅の便不便や、更に改造し或は增設する點、乃至は居住としての凡ゆる影響抔、實は其家の凡ての部分に而も多くの時間觸接してゐる婦人の方が、其家に對する缺點も長所も知り抜いてゐる。是は建築家にしても、餘程考慮に置くべき事ではあるまいか。

△次に、建築家諸氏、殊に日本建築協會にお願ひ致し度い事は、言聊か奇矯に亘るようであるが、今回の華盛頓會議に就き何れは何かの形式に於て處分せねばならぬと想はれる處の、我軍艦の問題である。元來、斯の地球なるものは、申す迄もなく造物者の造つたものである。そして其上に在りと凡ゆるものも、亦造物主の靈手に成つたものであることは、恐らく異論の無い事であらう。

△面も、其凡ゆる有象物は、何一つとして建築其ものに關係の無いものはあるまい、と想はれる。であるが故に、建築家それ自身は、此の靈妙な造物主に亞ぐ處の人達である、と推稱した處で、何も幷う奇矯な言葉だと排すべきではあるまい。

△仍て、斯の造物者諸君に一とつの問題を提出し度い事は、件の軍艦處分問題である。先日、神戸の川崎造船所に於て、我戰艦『加賀』の進水、實に戰艦として世界のそれを凌ぐ程なる甚大な噸數の『加賀』が進水したのであるが、當時其進水式に貳拾萬圓許を費し、幾萬と數ふる人達の拍手歡呼の波に送られて、美事進水を畢つた斯の盛儀な一方に、華盛頓會議は、將にそれを廢棄すべき軍艦の一とつに數へむとしてゐる。見樣によつては、何んたる皮肉、何として影の薄いことではあるまいか、とも思へる。

△恰度人間の死產のようなもので、今之を俄に火葬に附する事も出來得ない。さりとて此の儘遺して置くことも勿論問題でない。まさか太平洋の眞ん中へ持つて行つて爆沈するでもあるまい。何にしても隨分とも厄介な問題である。是は勿論『加賀』許りの問題でなく、我戰艦級のもので廢棄さるべき軍艦は、同樣に其問題を有つてゐる。

△先日の新聞に、例の亞米利加の自動車王フォード氏は、世界の廢棄さるべき軍艦を一手に引き受けて自動車の材料とする、といふことが載つてゐたが、それは、果して什麼ものか、今之を詮索する要もないが、何にしても、我軍艦の廢棄さるべきもの、處分問題は、今から眞劍に考ふべき問題であつて、必ずしも、フォード氏の厄介にならなくとも、我れは我れとして相當有要な處分方法があらうと考へてゐる。

△仍て、私の考へとしては、問題は矢張り建築家に廻つて來るのであるが、由來我邦には大規模のホテルが無い許りでなく、少し許り般に外國人でも來ると、其宿泊に行き詰るといふ事實は大概の人が知つてゐる通りである。茲に於て、私は件の廢棄さるべき戰艦級の軍艦を陸上の然るべき地點

に引き上げて、それを、ホテルに改造することである。

△と云はゝ、諸君は、甚だ奇矯にして突飛な事の様に嗤ふかも知れぬが、軍艦を軍艦としてホテルに使へと云ふのではない、要は、あの到れり盡せる文化的設備を、利用し、改造して、ホテルに造り替へたら、といふ迄である。巨大な軍艦や、大商船舶の内部が、奈何に地上の贅を通り抜けて、凡ゆる文化的な施設のある事を知つてゐる者は、恐らく、私の云ふ事が、必ずしも、一片の戯談にあらざる事を思ふであらう。

△そして、若も出來得る事なら、例へば、一眸に攝河泉を望み得る彼の生駒山上にそれを設けて「山上ホテル」とか何かと名けたならば、恐らく世界の珍とし、而も、人間の寧ろ暗き方面を現はした戰爭道具が變じて、光明輝く平和の道具に產れ變るといふ事は、人間進化の歷史的徵象物としても、寔に大なる意義ある事と想ふ。斯くして、それ等の研究は懸つて一つに建築家諸氏の上に在る、蓋し建築家各位、斯の問題を奈何に考ふるであらう?。

富士山の重量

富士山の容積は、その裾野の不規則な部分を除き、海拔五百米突以上の部分だけを取つても、約四百九十三立方粁ある。今假りに比重を二、五とすれば、その質量は約一萬二千億噸である。これ丈の質量を運搬するには毎日一萬噸づゝ運ぶとして、約三十三萬年を要する勘定である。

建築上の防火的施設に就て

共同火災保險株式會社
專務取締役　田所美治

建築上の防火施設といふことは、何分にも專門に屬する事項であるから、私共素人として、勿論それを奈何にすべきかといふことは解らない。けれども、只此處に、火災保險當業者として多少な經驗を申述べると、所謂小火が大火と成つて、從來屢々實現したような慘事を生ずるのは、是にも種々な理由はあるけれども、其中、主もなる原因の一とつは、實に、風位の關係に在る、と思ふ。

即ち、建物の所在地と、風の位置及方向坏の關係に由りて、其地帶は、常に大火の可能性ともいふような一種の危險性を有してゐるか、或は、比較的安全性を有してゐるか、といふように、地域自體が斯る性狀の孰れかを有してゐると云つて可い。例へば、從來屢々大火災を起した處の地境は私共火災保險業者から觀て、實は、保險契約の禁止區域である、東京市の神田區の如き、或は北海道の某地方の如き、孰も禁止區域に屬してゐる處の例證であるが、神田が從來幾度も大火に見舞はれ、北海道に度々大火災のあつた事は御承知の通りである。斯る地域は、大火が多うかつたから、保險契約禁止區域になつたのには相違ないけれども、寧ろ、之等の地域に、縱むば大火災の經驗がないにしても、常に有風帶にして、斯る危險地帶なるが故に禁止區域となつたのである、と云つた方が其實質をよく說明し得られると思ふ。

測候所の觀測は、地帶による風位の關係を精細に示してゐるから、是によつて、孰れの地帶が大火としての安全帶で、其孰れが危險地帶であるかを識ることが出來得る。又必ずしも測候所の科學的な觀測に俟つまでもなく、火災保險の外交員達

でも、經驗上、斯る地帶を能く知つてゐる。現に京都市の如きは、從來、大火といふようなものが無い許りでなく、火災が極めて少いのは、畢竟、同所の無風地帶である事が、其最も主要な原因だと考へられる。家屋の綱密な事も、火災の多い、そして、大火と成り易い機因ではあらうが、左りとて、必ずしも、家屋が櫛比してゐるからと云つて火災が多い、とは云へない。それよりも、風位の奈何といふ事が家屋の稠密以上に火災の重要な原因である。

故に、建築家は、建築構造其ものに防火上の種々な方法もあらうかなれど、他面には、斯の風位の關係を充分考慮に入れて施設されることが必要であらう。殊に、私共火災保險業者の認めて以て禁止地域と做す箇所、或は、危險地帶と做す境域内の如きは、建築構造上に於て、是に適應するような施工をなすことが、最も必要ではあるまいか。

次に、理想としては、我邦の木造家屋を、少くとも主要な地域内だけで全然鐵筋混凝土か煉瓦か其他然るべき防火的な建築物となつて欲しいのだが、先づ差當り、公共的建築物就中校舍の如きを完全防火建築に爲て欲しい。私が文部省に居た頃でも、學校を二十許(?)拵へたのであるが、現内閣になつても、高等學校や各種專門學校抔、新設擴張で、隨分澤山な數に上つてゐるが、其校舍の多くは、悉く木造建築であつて、防火抔といふような事は、殆んど顧みられてゐない。文部省直轄の學校は、其校舍の保存期が二十年になつてゐるから、二十年の間に一度燒けたとて、新しく建て換へるまでの事だ、といふような考へではあるまいか、是は必ずしも穿ち過ぎた考へであるまい。私は、曾て劍橋大學や牛津大學抔を視察したが、其節非常に感じた事の一とつは、其石造や煉瓦造りの校舍の外壁を、一面の鮮苔や日蔭葛で蔽はれて、奈何にも百年の歷史を紛りがに語つて、其奥床しさを覺へた事である。そして、それ等の校舍が語つてゐるように、校舍内の敎室や、學生の部屋抔を覽て、曾ては、英國宰相某しの學むだ室だとて、机も、椅子も、其他の調度も、昔の儘になつてゐる態まや、例へば、日本の誰れ某れの居た

室とか、之等の實際を覽て、參觀者の感慨無量なものがある。然るに、日本の校舍杯は、殆むど皆な木造のバラック式だから、與床しい歷史に、學生の品性附けられる一とつの衝動と成つたり、又は參觀者に深い高尙な印象を與へるような事は、恐らく望まれないことであらう。

　啻にそれ許りではない、多くの學生を收容し、而も將來多くの期待を寄する處の之等多數な學生を淘冶すべき校舍が、燐寸箱に火を附けたような寔に脆い性狀を有つてゐる建築であつたならば、其危險と、圖り知り難い損害とを、恒に藏してゐるのだ。是をしも忍むで、依然木造建築本位の建築其ものに、何等防火施設無くして恬然たるならば、何としても、私は其無謀を嗤はざるを得ない。併し、完全な防火建築と成すには、之を在來の如き木造建築に比して、勿論、財政上の關係をも考慮せなければならぬが、比較的多くの經費を一時に注ぎ込むだとて、從來の如く貳拾年間で廢毀するも可なり、といふような短期保存から轉じて、百年の存在を保つとなつたならば、其經費は、一種の公債に外ならぬ。即ち、校舍の保存は、所詮一種の償却其ものである。故に、校舍に多額な經費を注ぎ込むだとて、それが、防火や保存に、そして、校舍としての性能に、合理的である限り、決して冗費ではない。二階以上を出づる事の出來得ない木造建築では、單り火災だけでなく、地價が增々騰貴する都市の現狀では、平面にのみ延ぶことの奈何に不經濟なるか、今更らに申すまでもない事である。故に、例へば、鐵筋混凝土建築か或は石造か、其處は專門家の然るべき防火的建築と成して、同時に、必要ならば幾階でも上へ延び得るよう、地積を頗る經濟的に利用すべきである。

　序でに、防火施設の關係として申述べて置き度い事は、「火災報知機」の設備である。大阪市内にも、多少それ等の設備はあるようだが、行き届いてゐない樣に見受ける。殊に、報知機に惡戲をなしても、時々空ら騷ぎを遣らされることを、當局の人達が頻りにこぼしてゐるそうだが、私をして云はしむれば、幾等惡戲をされて空ら騷ぎを遣つた處で、其事が何も報知機の開設を手控へるといふ理

由にはならない。縦むば十回の内九回迄が悪戯だつたとするにしろ、其内一回だけ火災であつたら怎うするのだ。機敏に事に應ずるのが消防機關の任務だから、何度駈け付けようが、それは問題であるまいではないか。幷麼事で意氣沮喪して、報知機の增設にまで影響を及ぼすようでは駄目である。何にしても、火災を成るべく最小限の損害に於て防ぐには、迅速に消防機關の活動を始むるに在るのだから、非常報知機を成るべく周到に設けて所在に斯の設備あるように致したい。斯の點に就ては、殊に大阪府當局者に希望する次第である。

（文責在記者）

凡そ誠實なる製作は神聖なるものなり

凡そ誠實なる製作は宗教なり製作は即ち敬神也

設樂氏「の實費計算式請負制度」を讀みて

株式會社松村組
社長　田中譲

□實費計算式請負制度に就ては、本誌十一月號に設樂氏の御意見を掲げられてありましたが、私は先づ大體に於て、同氏のその意見に賛同する者であります。併し、現在としては、とても其實行が難かしいでしよう。

□何故ならば、設樂氏も申されましたように、其所謂是が實費だ、といふ事が、抑も譯の判らないもので、實は對人的信用の問題でありますからです。甚だ突き入つた事を申すようでありますが、是が實費による計算でムいます、と云つた處も、實は、其所謂實費なるものが、一割やそこらを掛けてゐる、と見て可い場合があります。

□斯う云ふ譯ですから、ほんとうに、是が眞正正酩の實費額だ、といふには、今一段も二段も、個人間の信用關係が進まねば、先づ今の處で駄目だと想ひます。問題は最早至極簡單で、凡ての條件が都合好く行く以上は、實費計算に超した方法はないから、寔に結構なことだと申し度いのであります。

□けれども、只今の處で、施主に於てそれ程な雅量があるか、又請負業者に於てそれ程に對人信用が進むでゐるか、縦むば、今日の請負業者は昔日の如きものでなくして、時代と共に餘程進歩し來つては居りますとも、施主と請負業者間に、何の顧疑もなく實費計算額を妥當なりとする時期は、まだ〳〵今少々先きがあらうと想はれます。

□然に、現在、實費計算式な請負に就て少數な實例はありますけれども、凡ての工事が斯ういふ形

式に藉らない限り、又、少くとも、建築工事の大部分が片うでない限り、右に申しました處の對人信用が縦むば其程度に參りました處で、肝腎な職人の供給に、時には非常な支障を來して、結局、實費計算の本質を沒して、依然、一種の請負制度に逆戻りするような事實があります。

□と申しまするのは、實費計算の性質として、職人に、從來のような工事の部分的請負という事を許されない筈であります。例へば天井板一つ削るにも、從來は、往々其幾坪かの凡てを一括して、是で幾等、という風に請負はしたものが、實費計算になると、工程ということには關係なくして、實際幾等工程か進まうとも、矢張り一定額の勞賃しか得られないのですから、此處に、實費計算式な工事と、從來の樣式によるそれとがあると假定しますれば、職人は、前者に往つて例へば參圓五十錢の日給を貰ふよりも、後者の方で請負による仕事をすれば、倍額の七圓にでもならうか、というような譯ですから、其結果、實費の方は熟練職工を得難い、ということになります。

□現に、斯ういふ苦い經驗を嘗めてゐる處の事實があります。斯る弊害を除かうとしますれば、亞米利加抔のように、職人の日給制度を更めて、月給制度或は週給制度にするより方法が見付からないと想ひます。斯の點に就て、設樂氏は、職人を常傭となし、其上に工事監督に槌の利ける者を据へたなら可からう、という意味の事を申されましたが、右に申しましたような關係は、其所謂常傭ですら供給困難という立場が出來ようと想はれます。

□今一とつ、それに附帶して申述べたい事は、工事の分割施行であります。例へば、實費計算に致しました處で、基礎工事と鐵筋やコンクリートと或は本館と附屬屋と、其他工程を細分して實費請負となした場合、從來の實例としては、仮りに足場一つでも、無償で使用出來ないから一つの足場が、後から後と施工者は、其凡ての工事全體から觀て二重にも三重にも報償せねばならぬ、という關係上、隨つて工費の上に負擔を重ぬる事になります。

□斯る結果は、工事費の嵩む爲、請負人が不當な工費を貪るかのように考へて、請負人の責任に歸せしむるといふ實に不當な現象を生むのであります。斯る事實は、畢竟、施主が最初の方針を誤つたのに起因するのであります。彼樣な譯でありますから、施主に於ても、請負業者に對する理解を今一段も二段も進めて頂かねば、實費計算といふ形式を採るにしても、其實施上種々面倒な問題が起つて、到底圓滑には參るまいと想ひます。

□併し、我建築業界は、現今迄の請負形式が漸次動いて、落ち着く處は、實費計算式となるのでありましよう。要するに、最早、時間の問題でありまして、其時間中に、請負形式に伴ふ種々な條件も、實費計算制度の可能なるように更まつて、竟に、汎く其制度の行はるゝことゝなるのは、殆んど疑ひもない事でありましようが、之等の機運を促進するには、恁うしても、我業界諸士の態度を成るべく斯る制度の實現を助長するように採つて頂き度いのであります。（文責在記者）

乾鮭に
名利の
あぶら
なかりけり。

都會生活から建築の外觀への一考察

會員　伊藤正文

（その一）

終日鐵工所の中で齒車のかみ合ふ音、エンヂンの唸り、ハンマーの氣魂しい叫びを絶え間なく聞かされて働いてゐる人々の耳は、音樂をきいても他の人々が享樂する樣に受入れることを聽いたが出來なくなつてゐる。そこに物質文明の痛ましい結果が見られる。そうした人々の耳は音響のおひ重る刺戟に災されて痲痺してしまつたのだ。そんな事が人間としてあたうまへの成行だと云へようか『都會に育つた兒は海を見て恐れる』とか『神は田舍を作り惡魔は都會を作る』とか云ふ言葉は色々の人が云つたり書いたりしてゐる。

山の温泉宿へ一人泊り、夜更けに谷川の畔から空をくぎつて聳えてゐる黑い山の輪廓を見ると、空恐ろしい樣な氣になることもあるが、これも永い都會生活に馴れ過ぎた爲の惡い結果である。

人間には、その環境に直ぐに馴れ切つてしまふ樣な傾向が先天的にある、之が正しく現れる場合と、却て不都合な弱點になる時とある。

一面に奇を好み變化を求める樣な浮氣な心、即ち好奇心がある。斯の二つの心の働きが、正しく現れては、生活に進歩を促し、惡く現れては過剩な刺戟を追ひ求めて中毒を起す。

都會と云ふ有機體の病氣は止むに止まれぬ複雜さと刺戟が强過ぎて、その分子である人間達の心に餘裕を與へないことである。刺戟に馴れては次の刺戟を求め、次から次と刺戟を求めてゆく。その事が中毒されてしまつてゐるのだ。

哲學や藝術はパンの問題によつて押のけられ、

哀れな輕薄な、センチメンタリズムの衣一重に慄えてゐる始末だ。

都會は物質文明の結晶となつた。都會分子は内面の要求よりも外界からの刺戟を求める　それで結局は、文化的有機體として活動は出來ない。

文化的の有機體は都會の理想である。しかし、現に都會は物質文明中毒の病體だ。

人々は刺戟に馴れて靜かに心から驚くことも出來なくなる。誰かの云つた樣に、我々の先祖が浦賀の沖の黒船に驚いた樣な驚きを、平凡な事實の内に驚くことも出來なくなる。強い刺激にそれからそれと馴れてゆく。田舍から偉大なる人物、深遠な思想が生れるのに反し、都會から淺く鋭い才子が多く現れ、又は犯罪事件が都會に多く起るのもその惡い方面を見せてゐる。

（その二）

建築は都會の華だ。都會は建築の花園である。大小無數の華が開いてゐる。併し温室的の生氣のない華が多くはないかしら。

都會の病氣は、建築其のものにも現れてゐる。即ち、餘裕がない。

刺激が強過ぎて、それに馴らされ、却て益々刺戟的な、安定のない、騒々しい、そして、複雜過ぎて統一のない見榮へ坊な建築に成り易い。

建築の外觀のみならず、都市の上に現はれた一般の事實の、複雜で統一を欠くを正す可く都市計畫は行はれ樣としてゐる。

それは建築そのものゝ統一よりも、市街の統一を目的とするけれども、市街の統一は建築の統一を要する。建築の高低階高、建築線等の問題は勿論の事、鋭い神經的な都市民の眼には建築の外觀上の統一を要求する。

併で建築の外觀は都市の刺戟的な鋭い氣分を和らげ、住む者、働く者、歩む者に、落付きの感を與へる樣なものであつて欲しい。町には野に咲く花の樣な清楚な建築が多くありたい。平凡でもよい、單純であつてほしい。

都會の建築——市街の建築は安定の感を與へる

ものと云ふ意味は結局そうなる——現在及過去のものゝ意味の域内を出てゐないことになる。而して若しも過去のものが、自然そのものから暗示をうけ、又は人間的に努力した結果として出來たものであるとすれば、新にそれを本として變へて作られるものは、却て内容から見ても薄弱なものになりはすまいか。

例へばレネサンス末期の建築と希臘古代の建築と較べて、前者は後者に比す可くもないものがあるであらう。

しかし、今此處では、變つた形、即過去のものから變化した形、又は分離的に全く新しい形式、そう云ふ建築の形式の是非は云ひ度くない。

又「此建築は面白い」「是は氣の利いた家だ」「此家は感じがよい」抔と云ふ味つて見る立場からでもなく、市街の建築は斯くあることが良い、と云はうとしてゐるのだ。

（その四）

ので、單純であり整然として統一があり、しかも餘裕のあるものでありたい。

（その三）

都會生活は凡ゆる方面に不安と焦燥とがあり、それをまぎらはす可く色々の刺戟があり、更にそれに飽き足らず次の刺戟を求めて止まない。

都會病のバクテリアは過剰の刺戟である。

從つてそれを助成する様な原因を避けるのがよいのだ。結局刺戟が只でさえ色々と多いのに、その上にも、刺戟する様なものを故意に設ける必要はない、のみならず害になる。

複雑なものは單純化する可きである。

人は好奇心と刺戟になれた習慣とで、變つたものの變つたものと求めてゆく。つまり流行である。

その間に生れる建築は實に千種萬態であるが、變つた形へ變つた形へと追ふ單なる考から出來るならば、その前のもの即現在まであつたものを標準にして、それを變へてゆくのであるから——變

約り、刺戟に追はれ、刺戟を追ふて進むことを止めたい。災害の防止、都會の衞生、ある程度の體裁を目的として出來た建築條例、都市計畫としての交通整理、公園計畫等も、それを基準となす可きもので、それによつてすべて計畫せらる可きであるが、都市の建築群が齊然として平明な感じのする街を形造る樣な建築の意匠であつてほしい。しかし前に云つた單純　統一、安定、及び余裕の感じ、此等の四つを滿足せしめる外觀を有する建築は、

それでベストであるとは云へない。

すべて色々の材料、色々の意匠によつて出來る建築が、此等の四方面から見て無難であつてほしいのだ。

單純。——感じが平面的であるとはその一つだ。シンメトリーのコンポジであることも其一つだ。但し平面的とは繪畫的であつて彫刻的でないことだ。ボール紙を立てたり、スクリーンを立つた樣なことばかりを云ふのではない。

安定。——云ふまでもない安定の感である。力學的の安定、卽ち外力と應力との調和の表現だ。

それによつて時間的にも耐久と云ふ感を與へたい。

卽時間的にも空間的にも力の美しさを見せることだ。

統一。——美學的に見て、開口(窓及入口)と壁面との關係、云ひ換へればソリッドの部分とボイドの部分との比例や、

色の調和、卽ち仕上材料の色の組合せ工合等である。是も單純である爲には多くの色が入混つて調和するものよりも、成可く沈んだ色の單色にしたい。

而してそれ等の調和が全體としてのまとまりを見せ、決して散漫なものでないこと。

帽子をかぶり禮服を着て跣足で立つてゐる樣なのや、靴をはきヅボンを着しながら上半身裸體の樣なものや、裸體

で下駄をはいた様な意匠のものよりいつそ素裸體で、構造のプリンシプルを正直に表明しただけのものゝ方がいくら良いか知れない。

餘裕。——何所から何所まで能くゆき届いた隙のないものよりも、少し間の抜けた所があつて急所だけでめつけてゐる様なものがよい。——勿論見掛けの上でだ。

——是は特に裝飾をつける上に關係する、解り切つた問題だが、裝飾の集中と云ふ事も思ひ合す。大部分の壁をブランクに殘して置いて、所謂急所へ飾を集中するのは良い方法の一つだ。

建物に大きな感じを與へ落付いた氣持を見せる様にするのは餘裕をつけることだ。その事が餘裕だ。此ゆとりと云ふことは安定であり、單純であり、統一があつての餘裕であるから、あらゆる條件を滿足してからのつけたりとして考へられ易い。つまり問題にされないことが多い。神經的な程、餘裕がない。都會中毒の激しい程神經質になる。だから餘裕のないもの程都會中毒を助成する様なものだ。

さわがしい意匠よりも、むしろ間のぬけた意匠が良い。

以上列べたことは市街建築のみに限らないが、市街建築としては是非それだけはゞなわつて居ることが望ましい。

要するに、外觀の上から見て、市街に建つべき家は斯の四つの方面を滿足するものでありたい。

都市計畫は、都會が煩雜になり過ぎて有機的の活動が鈍くなるを防ぐ爲に、又ヨリよく健康體にする爲の立案であるが、ヨリ小さく見て斯の問題も都會の病的な刺戟を和げる目的に添ひ、消極的にでも、都會生活のあわただしい中に、幾分のゆとりを見出すことが出來るだろうと思ふ。（畢）

（十一月三日夜稿）



「研究」

デパートメント・ストアーに就て

會員　建築士　津田鑿

歐米に於ける百貨店の狀勢

昨年短時日の外遊の間に歐米一部のデパートメント、ストアーの建築と、其設備概略をホンの素通りながら見る事が出來たので、聊か所感を述べて見る事にする。

百貨店は今日各國到る處に存在して規模の大小はあつても、目的は何れも一つで如何にして便利に且安價、華客の意を迎へるかに汲々として居る結果、自然其營業上たる家即ち建築上に至大の關係があり、其苦心もよく顯はれて居る。

店頭の裝飾は勿論、階段、エレベーターの位置は云ふまでもなく、最も大切とするは曾ひ入口の工合であらう。無暗に入惡い、又混雜するのは自然と客に不快の感じを與へ物品の陳列の巧拙は云ふまでもなく、建物の所在地が必ず地價の最も高い其都市の繁華の位置を選擇する必要上、自然かぎられたる地面上より建築條例の許す範圍に於て便利に各室の配置を得る設計、即ち無駄のない考案をするに最も苦心を要する譯である。且建物の建込んで居る場所は、光線の射入と附近道路の關

係から、荷物の運搬等意を用ふるべき處、設計者の手腕を要するは云ふまでもなき事である。英國は百貨店の大なるものが少い。あつても極めて小ぢんまりとしたるものである。ロンドン市中にセルフリッヂと云ふ米國人の經營で、目下尚未完成の大きなものがある。

いまだ工事の中途で盛んに建增しの工事を急いで居る。例へ完成しても三越と大差はない程度のものである。併し正面隅の入口を入つた處に喫茶店があつて、英國人には無くてならない三時のお茶を、悠々喫する場所としては、甚だ便利な位置を占めて居る。巴里には相當な店が五六あるが、品物は別として到底本場の米國には及ばぬ。尤も殆んど百貨店の生命とも云ふべき、ショーウキッドーは二重式のもの（後に說明を用ひて居るが）聊か新式を誇るに足るとでも云ふことが、出來るが其他差したる事はない。

米國は既にデパートメント、ストアーの元祖だけあつて、設備完全日日新しい試みを實行して居る。其內シカゴのマーシャルフイールドの附近は澤山の百貨店が軒を並べて各々其店の特長を爭ふて居る。マーシャルフイールドは誰も紹介する通り、設備の完全した店として有名なもので、五階までは普通の商品を陳列し、六階を事務室に當て其處で男女の澤山の事務員が働いて居る。七階は工場となつて品物を製造する處を見られる。其他は地下室（歐米何處でも大底此地下室は見切物を陳列したり或は臺所道具のやうなあまり上等でないが最も實用的のものを賣る處となつて居る）は安物を陳列して一部分が休息所のやうになつて居る。其處をだん〳〵進んでゆくと知らない間に、人道の下から公道の下を通り抜けて向側支店の別な建物の地下室へ行く事になつて居る。是は後で氣がつく事であるが、向ふ側の建物へ渡つて行くのに不知不識の間に行かれると云ふのは、頗る面白い上手な設計と云ふ事が出來る。

それら內部の設備に見よ

今かりに是を內地に例を取つて見ると三越はいよ〳〵建物の敷地が無くなり、階數も制限を越す事が出來なくなれば、自然と公道を飛越して

向の地面を買收でもして、其處に支店を造る曉は前に述べた方法に依らねばなるまい。現在三越は本店より數丁離れた丸之内に別館と一部分の工場を有つてゐるが、之等營業上無論不便を感じてゐることであらうと思ふ。

斯云ふやうに、地中を利用して、兩建物の連絡を取ると云ふやうな大仕掛の事は、他に一寸眞似の出來ないもので、吾々の想像も及ばぬ事であり流石米國のやり方に敬服するより仕方がない。尤も我國で地下道を建物として使用するには許可が如何であらうか。最近に帝劇と東京會館の連絡が單に廊下で出來かゝつて居るが、到底是れが地面の中を通行出來ると云ふ事に止まつてマーシャルフィールドの樣に、知らず〳〵に向ふの建物に移つてゆくやうな、巧妙な感じは如何であらうか。現代科學の進歩は建築材料又は施工法に斬新なる技術を應用して、豫想外の物が何の不安もなく出來上つて居る。

ニューヨークにも四五の大なる店があるけれども、大同小異或は階段を中央に探つたり、側面に割合に都合よく取つけられたり、其他は特筆するものはない。前に述べたショーウキンドーの二重式は即ち道路に面して、第一の飾窓があつて、其後を通路として、更に第二の飾窓を造つてある即ち觀客は先づ第一の窓を見て、巧妙なる粧飾と陳列してある品物を覽ながら、知らず〳〵其裏面をのぞき、眼は更に第二の窓に移つて恍惚として居る間に、店内に流れ込む仕込になつて居る。尙窓の前に澤山の客が立止つて居る事は、人道を通行する人の妨害となつて、落付て品物を觀賞するに不便であるから、此二重窓の方法は最も進歩したものと云ふ事が出來る。

採光設備と金錢勘定場の設備

尙ガラスは、自由自在に異形即ち丸形又は角の丸いもの、或は特別に大きな一枚ガラスを、飾り窓に惜し氣もなく贅澤に用ひられて、一層光彩を添へて居る。街上の向側から内部の陳列品を見せる爲に店の階上の窓に大硝子をハメ込み、其れを飾り窓にして特別に觀客の眼を引き付けるやうな、人形に新裝を凝らして、其店の如何に時代

に應せる物品を所有するかを誇つて居る方法を、歐米の到る處に能く採用して居るのを見受ける。

採光設備は最も大切な必要條件で、物品の良否はあまり直射する光線は品質を損する怖れあり、又餘りに薄暗いのは不快の念を與へる怖れがある故に無暗に明過ぎては品物によりて、品質を露出過ぎて面白くない事もある。横窓から來る光線と中央の打拔天井から來る光線の調和を、巧に利用し且照明の設備は非常に進歩して、敬服すべき點が澤山に見出される。

金錢の勘定は種々の方法を用ひて居るも、最も便利なのは、帳場でない場所に普通の勘定器を据え、手輕なるが却つて便利として使用され居る。客に取りても又小さい物は其場で直ぐ勘定して受取る方、双方の時間と手數の經濟で、便利も當然の事である。服裝の關係から大抵の所持品は携帯の儘出入勝手であるから、我國の下駄、傘抔携帯品の受渡に混雑する點に比較して、頗る靜なる點は羨望の至りである。

百貨店ではないが歐米各地に存在するアーケード、是は建物の路地に硝子屋根を造り雨天でも通行を自由にして、其通路の兩側の窓に陳列して、觀客の眼をひく方法である。是は日本でも地價が追々高むれば自然建物にも影響して、路地を經濟に使用する事になる、各都市の商業地域の到る處に之を造る場所が澤山ある。

奈何に改良すべきか？

現在各所にある我國デパートメントストアーが、若し假りに幾何か改善する處ありとすれば、如何なる具合にしたら一層便利で、有益なるかを考へて見ると、仮りに吾々が何れの店に行つても、必ずしも一階から最上階まで例へそれが必要でない場所で、飛廻る事の苦痛を感じながらも、行かねばならぬ事がある。最もエレヴエーターやエスカレーターを利用すと雖も、出來る事なれば手取早く用を辨ずるには、一階乃至二階位で辨じたい。時に五階にのみ用があるにも拘はらず、他の不用の場所を廻らねばならぬ處がある。是は階數に應じたエレベーターを設ける。即ち成べく直行するものを造ると云ふ意味である。是は確かに

便利で米國の數十階の建物には必ず急行と徐行とがあるから是を利用したい。次いで下駄又は携帯品の始末であるが、一々一時預りをするは双方非常な不便且面倒なる故、此點丈の一部でも改良せられたならば、有益と思ふ。建築構造上許す地面なれば、地中室を造つて是に全くの日用品食料雜貨、臺所品又は見切品、或は上等品でなくとも季節物を陳列して、便利に喫茶店の一部位を置く。一階は路面よりなるべく高くせずに上り、商品券賣場小間物產物、及び其店の最も力を盡すべき呉服或は書籍文房具、他店に比　誇りと信ずる物を陳列し、此他一通り添へて、地中室と一階で大抵の用を辨ずる仕組とし、是迄を下駄履きの儘で出入させる。最も地中に降る階段は、相當に造る必要がある。一階は通抜自由として便利にしては如何か。土足の塵芥は勿論充分掃除して入る仕組にするは困難でない。二階以上は多少落付て見らるゝ物とか、註文品又は貴金屬類繪畫美術品抔に區別し、始めて下駄を預け靴はカバーを用ひる。是迄の名案で充分である。斯すれば少くも三分一は地中と一階ですむ人が出來るであらう。歐米のものは必ず地中にも相當に商品を賣る設備がしてあるから、決して不愉快のものではない。

食堂設備は考へもの

現在食堂の大規模は到底外國では見られぬので、却て便利より不便利ではあるまいか。品物は買はずに或種の會合や人の待合場となつたりするが、例へあれだけの事をやめても可からう。尤も間接には利益もないではなからうが、食物專門に見えて、外人は定めし嗤つて居るであらう。食堂は少し切つめても郵便局、理髪所、銀行出張所、地方人の爲に案内所、肩の凝らぬ休息所の設備を希望する。此他爲すべき事は澤山ある。シカヅメらしい休息所に茶を出すのは、茶碗を充分消毒でもすれば格別であるが、種々の病毒黴菌媒介の怖ある故注意を切望する。勿論是は喜んで飲む方にも注意の必要があるが、單に喉がかはいたと云ふやうの場合には、米國各地又は日本の共同便所の噴水裝置で、茶椀を用ひずして水を呑む設備をすれば、却つて危險は少ない。外國にはお茶を出す

デパートメントストアーは恐らくなからう。衛生上から掃除の如きも、是非電氣裝置の道具がある時代であるから、單に陳列に止めずソレを使用したい。尙日本流の掃除は各自の健康に、餘り能い影響はなからうと思ふ。

食堂はモー少し簡單にしたい。是は配膳所の位置が悪いからで、且食物の關係上外國のカウンターの前に腰かけて、直ちに食物を出し、呉れる樣には、尙今日進まないとしても、單に紅茶一杯お汁粉一碗の註文を受けて、配膳所に三十間も往復してお客に長い間待たせた上、やうやくお盆にのせて運ぶやうでは、貴重の時間を實に馬鹿々々しく使用する。此等も改良の方法はあると思ふ。

出來得れば手取早く時は金の觀念を持ちたいものである。

着物と着彈距離

妹「兄さん　此間先生が話してゐらつした通り此の物指しもメートルにかはるの？」

兄「そりやかはるとも」

妹「さう？！では兄さんの御着物だつて　何メートルといふのねえ、まるで大砲の着彈距離だわ！」

××鉛製ペイント排斥說補遺

工學博士　細木松之介

本誌前號の紙上に於て、鉛製ペイントの害毒を述べ、之に代ふるに、亞鉛製ペイントを以てせんことを提案したりしが、茲に又少しく其補遺を述べんとす。

鉛毒の事を知りしは、敢て近代醫學の進歩によれるに非ずして、古代に於て既に之を認めたり。即ち、希蠟の醫家ヒッポクラテス（紀元前四百六十年生同三百五十七年死）は、鉛毒の爲めに疝氣の起こる事を說き、又植物藥學者なるデオスコリデスも、鉛毒の事を其著書中に記述せり。中古に於ては多くの藝術家は鉛毒に罹りたれ共、此害毒が一般に知れ亘りて、之れが代用品を探求するに至りたるは、近代の事に屬す。

佛蘭西の學者ゲイトン、ド、モーヴォー氏が、鉛白に代用するに亞鉛華を以てせんことを唱へたるより、同國上院に於て、斯の說に贊成する者尠からざるに至れり。

ペイントに白色を附與すべき顏料として最良なるものは、亞鉛華即ち酸化亞鉛にして、之を製造するには、金屬亞鉛を熔解し昇華せしむるか、或は亞鉛鑛を灼燒し之を酸化せしめて採集すれば、殆んど、知覺し能はざる程の微細分子となり、其原料の如何によりて多少其性質及び純度を異にすれ共、其色は極めて强き白色の顏料を得べきものなり。即ち、市販の亞鉛を灼燒するも、純度九十九、八ペルセントの酸化亞鉛を得べくして、斯る純度の物は、醫藥として使用し得べきものなり。然れ共、ペイント製造用としては、亞鉛華中に二乃至五ペルセントの硫酸鉛を含有せる物を以て最良とす。而して、斯の程度の硫酸鉛は、普通の亞

鉛鑛中に含有せらるゝものなり。

斯く硫酸鉛を含有する亞鉛華は、其白色の點に於て幾分欠ぐる所ありと雖ども、其乾燥性強く、且之を以て造れるペイントは、純粹亞鉛を以て造れる物の如く脆からず。且又、其分子の集團は、絮狀を呈して容積大なるを以て、之をペイント製造の油と混合するに、鉛白に比して約二倍の油を吸收する力あり。故に、ペイント製造家も、亦塗布工も、共に充分の注意を拂ふ時は、鉛白製よりも優等の成績を得べきものなり。

又、米國華府工業試驗所の報告に據れば、五グラムの酸化亞鉛を、同量の亞麻仁油と能く混和し一ケ月放置したる後分析せるに、可溶性亞鉛化合物〇、一〇五ペルセントを生じたりしが、鉛白を以て同じ試驗を施行せしに、〇、一一六ペルセントの可溶性鉛化合物を生じたりと。

此試驗成績によりて之を觀れば、酸化亞鉛は亞麻仁油中の遊離酸と作用するものなるを知ると雖ども、亞鉛製對鉛製ペイントの使用上に及ぼす性質の差異は、化學作用に基因するよりは、寧ろ物理的性質の結果なることを識り得べきなり。即ち亞鉛華又は鉛白中の成分と、油中の遊離酸との作用によりて、少量の化合物を生じ、斯く生ぜる化合物の量は、頗る少なりと雖も、ペイントなる混合物全體に及ぼす影響も意外に大なるものなり。惟ふに、和蘭佗亞鉛華の特に優秀なるは、其中に含有する少量の鉛鹽に基因するものなるべく、晩近化學界の諸方面にて觀察せられたる事實に徴するも、極微量の夾雜物が多量の本體の性質に大なる變化を生ぜしむる實例頗る多きを以て之を證するに餘りあるべし。

次に、亞鉛製ペイントに對して唱へられたる故障の二三を掲げて、其正否を述べんとす。

亞鉛製ペイントに對して、第一に向けられたる非難は、其乾燥性の鉛製ペイントに比して微弱なりと云ふにあれ共、之れ其當を得たるものにあらず。尚、ペイントに於ける「乾燥」なる語は、水にて濕潤せるものが、其水分の蒸發によりて乾燥する如き現象とは、全然其趣を異にして、ペイントの材料即ち亞麻仁油の乾燥は、空氣中より酸素を

吸收し、一種の酸化作用によりて、亞麻仁油中にあるリノレイック酸が、オキシリノレイック酸に變化する作用にして、此オキシリノレイック酸は亞麻仁油が變化し得べき最も安定なる物體なるを以て、一旦乾燥したる後は、此以上變化する恐なき安固なる物體となれるものなり。而して、ペイントの乾燥を促がすには、必ずしも、鉛の化合物に依るの必要なく、否寧ろコバルト又はマンガン等より造れる乾燥劑による時は、鉛の化合物以上の効力あるものなるを以て、其少量を亞鉛製ペイントに加ふれば可なるものなり。

鉛製對亞鉛製ペイントの優劣に關しては、英佛兩國の專門家間に於ても可成り論議せられたる事柄にして、殊に、佛國に於ても、議會の問題となり、一九〇二年に於て建築家化學者及び醫學者より成る委員をして之を研究せしめたるに、其委員の報告には、

第一、色及び光澤は、鉛製も亞鉛製も異なる所なく。

第二、被覆力及び乾燥製は、兩者共に優劣を認めず。

第三、屋内と屋外とを問はず、大氣より受くる影響に於ても、兩者間に指示すべき差異を認めず。

といふにありて、其後、一九〇四、五、及び六の三ケ年に於て行へる試驗に於ても、前年の成績と異なる事なきを證明したり。

又一九〇八年瑞士ルツェルンに於て開會せる國際勞働會議に於て、屋内用ペイントには白鉛を、又屋の内外を問はずペイントに光明丹（卽ち赤色鉛）を使用する事を禁するの提議ありて、其結果、各國政府は、鉛の化合物をペイントの製造に使用する事に制限を設くるか、若くは、全然禁止するの法律を制定するに至れり。卽ち、墺國、瑞士、白耳義、獨逸、和蘭、噠馬の諸國にして、佛國は、一九〇九年七月より五ケ年の後には、特に許可を得たる場合の外、家屋に鉛製ペイントを塗布する事を一切禁止する事となれり。

次に、亞鉛華は、不透明性に於て鉛白より劣ると稱する者あれ共、亞鉛華に少量のリトポンを加

ふれば、決して劣る物にあらず。

次に、價格の点に就て、亞鉛製の不廉なる如く稱する者あれ共、事實は、之に反して、亞鉛製ペイントを以てすれば、鉛製よりも廣大なる面積に塗布するを得るものなり。

又佛國議會に於て、兩者を船舶用としての優劣を論議したる時、海軍技術官は、ルアンに於て三ケ年間施行したる試驗の成績により、亞鉛製は少しも變色等の患なきに反し、鉛製ペイントは甚だしく變色したる事を指摘したりしが、其他諸方面よりも同樣の報告を得たり云へり。

獨逸聯邦內のヴュルテンベルヒ鐵道には、一切鉛製ペインヽを使用せざる事となり、バーデン大侯國の鐵道に於ても同樣に禁止し、伯林及びシャロッテンブルヒの建築委員會にても。鉛製ペイントの使用を禁止したり。

之を要するに、亞鉛製ペイントに對する非難は事實的根據を有せず。無智か誤解に因るものなる故に、之を改正する事能はざるものにあらず。

亞鉛製顏料が、鉛製の夫等に勝る事は、前者の容積の大にして廣大なる面積を被覆するに足るのみにあらずして、之等に、他の着色料假令ば黃土、代赭、辨柄等を加ふる時、若くは、特に群靑又はカドミウム黃（硫化カドミウム）を混加する時に最も顯著にして、硫黃を含有する着色料を混加する時は、亞鉛製は何等變色の患なしと雖とも、鉛製ペイントは、爲めに變色するの欠点あるものとす。斯る場合に於て、亞鉛製ペイントに在ては、不可能事に屬す。

以上述ぶる所の如くなるを以て、建築家諸士は奮つて我建築界より鉛製ペイントを排除し、仍て以て、其製造に從事しつゝある幾多の從業者、幷に之れが塗布に從事する工人の健康の爲、一般社會の經濟の爲に、大ひに助くる所あらん事を希望して止まざる者なり。

附記　本稿を終りたる後十一月二十日の大阪每日に「ゼネヴアに開會中の國際勞働會議は三票對七十六票をもて除外例を附して塗料に白鉛の使用を禁止せんとする規約を可決した」とあり。



「都市」

都市計畫に於ける事象（三）

―市加古市の都市計畫に就て―

ウオルター・デイ・ムウディ著
Z Y 生譯

一九一〇年、ジョン・シイ・シャツフアー、ハロルド・エフ・マックコーミック、チャールス・デイ・ダーヴエス、ジョン・ゼエ・ミツチエル、ラ・ベルネ・ダブルウ・ノエス、ジユリアス・ローゼンバルド、チヤールス・エル・ハツチンソン アール・チイ・クレエーネ、ジヨルヂ・エフ・ポーター、マックス・バムは、アウデイトリアムの貨借權を獲、シカゴーフキラデルフアイヤーオペラ會社を創設した。こうした企圖をなすに方つて彼等は紐育のメトロポリタンのオペラの管理者との共同資本に這入つた―オット・エイチ・カーンフキリツプ・エム・リイツデイグ、クラレンス・エイチ・マツケー、ヂヨルヂ・ゼエ・グウルド、ハーリイ・ペイネ・ホイツトネエ、アンドレアス

デイツペル（此人はメトロポリタンの補助理事であつた）等が、此新會社の理事に撰まれ、クレオフオント・コムバニイニイが音樂の方の指揮者に撰まれた・百萬弗の資本の大部分を、背景道具立小道具、衣裝、近世佛蘭西オペラの發行特許權を購つた。而して價値ある藝術家はヲスカー・ハムメルスタイン（此人はマエストロ・コムバニイユイの敏腕なる共同者である）が契約をしてくれる樣にした、此新組織の團體は一九一〇年十一月三日の音樂季節にアイ・ダをもつて蓋をあけた。メトロポリタンとの契約をした結果、藝術家の交換もすることが出來た。第一時季に於けるこれ等の客分たる藝術家には、最大の花形の多くがあつた。たとへばグラールデイネ・フアラー、モウリス・レナウード、ジョン・マニーマック、エムメ・メルバ、アントニオ・スコツチイ、フランス・アルダ、リイデイヤ・リプコブスカ、フロレンツオ・コンスタンチノ、ヨハンナ・ガスカ、エンリコ・カルウソーである。六十四回の演奏會に、廿八箇の異なつたオペラを上演した。

コムバニイニイ演奏會は、一九一〇年の最初の日曜日に初めて開催した。そしてその後樣々の特色を出してゐる。コムバニイニイの拍節鞭の魔術の下に、此器樂家の大組織は、聖樂（オラトリオ）や高級の演奏プログラムの點に於て大なる能力を示した。次の市俄古の音樂季節に、此團體はフキラデルフイヤーに於て同じ演奏曲目を出した。亦紐育のメトロポリタンに於て、毎木曜日夕佛蘭西オペラを上演し、金曜日にはバルチモーアに行つて上演した。

第二の音樂季節には、一九一一年十一月廿二日サンーサーンのサムソン・エト・デリラをもつて蓋をあけた。この時にはルイザ・テトラツチニイマツギイ・テイト、エムメ・ガグリイアルデイ、ヘレン・スタンレー、ミンニイ・サルツアンーステイブンスの如き、有名なる新しい部員が加わつた。そこでは六十七回の演奏、三十一回の異つたオペラを上演した。フキラデルフアイヤーやその他の東部では、上に述べた樣な同じ順序で行つたのである。

プッチニーのマノン・ラスコーは、第三季に（一

九一二年十一月十六日）催された。この時に加つた新しい藝術家はチッタ・ルッフオー、ギオバンニー・ツアナテルロー、マリイ・ヘイ、リリ、アンノルディカである。シカゴーフキラデルフイヤ團は、此時季に、大平洋沿岸州を訪ふために、最初の大陸横斷旅行を企てた。フヰラデルフアイヤーの新聞紙は、東部から西部へのこの二百六十人の汽車賃を計算して、六萬弗に當ると言つてゐる。

第四の音樂季節には、シカゴーフキラデルフアイヤー・オペラ團として、一新時期を劃した時であるが、全く地方化した。ハロルド・エフ・マックコルミックは、東部の管理權を購つた。アンドレアス・デイツベルは辭任した。クレオフオントカムバニニイは、シカゴオペラ協會の專務理事となつた。此團體に加つた新しい藝術家は、ルキエン・ムラリエ（佛蘭西最大のテナー、ヴアンニイ・マルコウ（バリトン）、フリイダ、ヘムペル、ネエルリイ・メルバ、オリイブ・フレムスタツトである。この時季は一九一三年十一月廿四日、トスカを以つて開かれた。

一九一四年には市俄古に於けるグランド・オペラの空位時代があつた。併し幸にも專務理事カムバニイニイは、此時季に從事してゐた、凡ての藝術家を保有することなし、グランド・オペラの第五の時季に、幾等かの藝術家を加ふるを得た、第五の時季一九一五年十一月月曜日には、ポンチリイスのラ・ギオコンダをもつて蓋をあけたのである。ゲラールデイン・ファーラー、エムミイ・デスチン、オリーブ・フレムシユタツト、エルネスチン・シユマンーハインク、ジョン・マコルマック、スペルビア・コンチタ、ルイズ・エドヴイナアルフレツド・マグエナー、フランシス・マックレラン、アルキヤ・バン・ドレツサー、マリヤ・クウズネゾオフが加はつてゐた七十三回の演奏會三十七回のオペラが、十週間の間に公開せられた

これに續いて來る翌年の音樂季節に先きだち、倦むことを知らざる指導者、クレオフオンデ・カムバニイニイは、ゲラルデイネ・ファラー・ルイズ・ホーアー、ルキエン・ムラトレ抔の聲樂家を一組としこれにボストンのチャールス・エリスを

指揮者として西方中部を三週間演奏旅行することを企てた。一九十六年十一月十三日ヴエルデイのアイダをもつて、アウデイトリアムに第六回の音樂季節を開いた。

此時季の大なる藝術的の感動は、米國には無名の人であるアメリツタ・ガアリイーカルキが、最初の木曜日のマチネエに、リゴレツトのギルダとしての彼女の初陣をつとめたことである。彼女の勝利は不斷にそして完全なものであつた。そしてアデリナ・バツケイの得意時代を想起せしむるものがあつた。彼女が引き續いてルキヤとして、ヴアイオレツタとして現れてから、彼女の第一流としての位置を確實にし、又彼女がルキエン・ムラトアと共に、ロメオ・エンド・ジユリエツトを演じてからは、カムバニイニイ藝術的敏捷さに對する稱贊は、否定す可らざるものとなつた。其後に感動を惹き起したものはルキエン・ムラトアが、バクリアツキイに於て現れた時のことである。

市俄古オペラ協會の第七回音樂季節に先ぎだつて、アメリツタ・ガルリイーカルキイ、エムメ・メルバ、ルキエン・ムラトア、ゲオルグス・バクラノツフ等は西部中央地方を、三週間餘演奏旅行した。財政上の潤益に於ては、會に計畫せられたる演奏旅行中、最も驚く可き成功をしたものである。正規の季節は一九一七年十一月十二日月曜日マスカニーのアイサヴユを以つて始められた。此歌劇は米國では初めて上演せられたので、殊に此時代の最大の劇曲的ソプラノローザ・ライザが出演した。

こうしたグランド・オペラの七時季間に、市俄古自身の團體は、アウデイトリアムに於て五百一回の演奏會を催はし、カムバニイニイの指導の下に、卅七の嶄新なる曲目を上演した。これ音樂愛好家の著しい活動を示すものである。アウデイトリアムが存在して以來十七年間の演奏回數は二百七拾八回と記錄されてゐる（七十九箇の異つたオペラを上演した）十七のオペラ、一の聖樂（オラトリオ）が、アウデイトリアムの建築せられたそもそもの初年に演奏された。

初め投資した百萬弗も、第一期以來數回の時季

に支拂つてしまつた。精密なる計算によれば、一回のオペラの收益平均七千弗に當つており而して演奏旅行の收益一千弗に當つてゐる。オペラ協會の有形的の財産は、ハムメルスタインを購つて以來二倍になつた。

敎育局は小學校又は中學校に對する、音樂部として知られてゐる處の一の部を維持してゐる。此部はアグネス・シィ・ベース夫人が監督として責任を負ふてゐる。彼女は十人の補助敎師の助を受て働いてゐる。而して此十人の敎師は、市俄古市の十の區域に一人づゝ任命されてゐるのである。彼等は敎授をして見せたり、又敎師の敎授を監督する。又師範學校にも音樂科があつて、小學校に於ける音樂の敎授のための、小學敎師を養成してゐる。

多年市俄古市は、各國に於ける民衆が集合して唱歌をする點に於て無比なる特色を有つてゐる。一年一回—春期—に、兒童等は各方面の中心に集る、そこで兒童等は、聲樂、器樂共に、純音樂上のプログラムをもつて訓練される。これ等の集合は兒童等にも敎師等にも、知々く望がある。

民謠、國歌、愛國歌を學ぶことに、非常に力が入れられてゐる。縱し音樂上の正確な法則は等閑にせられてはゐるが。實際の兒童等への音樂敎授は、概して餘暇のある敎師に委ねられてある。併しこれは學校生活に於ける、休養的生活の重大なものである。市俄古の大抵な學校は、或愛唱さる歌を謳はしむるため、歌は公開してある。市俄古市程、音樂に對する愛を、高調し奬勵する方法に於て、努力を致す都市がどこにあるか。

敎育局は同樣に・小學校に對する藝術部の長としてルーシー・エス・シルク孃を任命してゐる。此部は音樂部と同樣の組織であつて、十人の敎師が各區を擔任し、敎授法を示し又敎授の監督をする。

市俄古市に於ける藝術には、圖書、圖案が含まれてゐる。近年にいたつて、これ等の藝術の分派に重きをおいて來るやうに、變化し來つたとは注意す可き現象である。さう大した前からではない

が圖畫を重ずる樣になつて來てゐる。併し漸次これは圖案などを重んずる樣に更つて來た。この藝術は作圖と密接な關係に持ち來らせられ、そしてその中に漸次に沒入してしまつた。これは寫生や描畫などが、他の形式の藝術に勝つてゐるといふ意味ではない。併しなんとなしに作圖か製圖が、層一層注意を惹くようになつたのである。

小學校に於ける藝術科は、屢々美術館に於て、兒童等の製作物の展覽會を催ほす。一九一八年の展覽會は『戰爭ポスター』の展覽會であつた。當時の目前の要求に、藝術を適應せしめてゐる樣がありくと覗はれた。これ等のポスターは、戰時の活動に對し民衆の注意を惹き起す目的をもつて兒童等によつて作圖せられたものである。

市に於ける藝術的勞作上の特色は、上級の兒童等をして、藝術的勞作物を巡察せしめ、研究せしめる處にある。七年生八年生等は特にその教師の指導の下に、之れ等の場所を訪ふ樣に奬勵せられてゐる。こうして藝術の各方面に對し、大なる興味と熱心とがゆり動ごかされてゐる市俄古の學校に於て入籍せられてゐる凡ての兒童は（少年十四萬四千四百廿二名少女十四萬四百八十二名、合計二十八萬四千九百四名が小學校、少年一萬四千四百六十一名少女一萬六千六百七十二名、合計三萬一千一百三十三名が高等學校）純音樂、藝術の刺戟を受るべく、善き藝術に接してゐる譯である。

之れ等の高等學校の科は、相當な才能ある頭によつて指導せられゐる。彼等は藝術、音樂の教授に關する市俄古市の學校の狀態を、高級なものとするために努力してゐる。確に市俄古市は此等の點に於て、他の都市に比して、非常に有望な位置にある。

音樂に次いでは藝術が、個人又は團體の、道德的智的能力を訓練し洗練する上に於て、最も教育上の價値をもつてゐる。恐らく或者は藝術を第一位におく。併しそれ等の人は、音樂を或形又は他の形に於て評價する力のない、心なき下い美魂の持主である。ではあるが、藝術の美に對し價値に對し、全く何等の感興もなき人が却々にある。藝術を眞に評價するには、音樂を愛し音樂に對する

才能を有するに必要なるよりも、一層洗練せられたる精神をもたねばならぬ、美藝術及美術の問題は、音樂程に左樣に多樣で獲得せられ得べきものではない。音樂、藝術ともに、美魂を刺戟し、精神を改善する力あるものなるが、音樂の動力の普遍なるとに於て、音樂は美術に勝るものである。

文學は確に他の二のものに先きだつべきものである。何故なれば文學は基礎的敎育しか有せぬ男女を、最初に訓練す可く與へらるゝものである。併し文學は此の危險を有してゐる、音樂や美術程に人が是に熟達することが出來ぬ。淺薄なる人の自然の性向は、容易なものに向ひやすい。惡文字と稱し得らる如きものに向ひ易い。左樣いふ人はこゝなはれた音樂や美術に漸次に轉じて行くことを願ふ樣になる。殊に彼の皮相な性質を滿足させる機會が手近に豐富である場合は別して左樣である。

世界に於ける惡い文學が呪である時に、音樂は惡い音樂でも人生に對し道德的の祝福となつてゐる。豐富なる三位三致—善き音樂、善き美術、善き文學—これ等は廣い敎養上の熟達を造る。

この三つのものの豐かに、又秀れたる點に於て市俄古市は羨望す可き位置にある。世界コロムビヤ大博覽會の後（十九世紀の最大なる、建築上の勝利である）市俄古市は建築美術の點に於て、米國の中心となる優先權を獲得した。美術に關し、此國に於ける最も無比な、廣い藝術上の感化力は美術館内の大なる美術學校である。

又此大都市はこの同じ方向に向つて尙ほも進んでゐる。即ち公立の建物の裝飾の爲に、美術家に依囑し、繪畫購入のため、年々五千弗をこのために全部費してゐる。此の責任を負ふ可き委員會は市會によつて任命せられてゐる。この目的のためにこういふ設備をしたことは、市會が曾て企てた仕事の中で最も大出來のものである。この設備は畫家をして市俄古市に留る樣にせしむる廣く一般に藝術上の趣味を發達せしむる。そしてこれの事業を繼續してゐることが、聽て他の諸都市をして之れを見倣はしむる樣になる。繪畫、彫刻その他の

藝術品は、縦し小なるものではあるが、最良のものである。而して之れ等は、休日に學校の兒童等をして、之れを享樂せしむる處に置いてある。

この計畫は、初め、佛蘭西のやり方から來たものである。佛蘭西政府は、佛蘭西の美術品を、ルクサンブルグに購ひ込んでゐる。巴里市も同樣にペチット、パライズのために購入してゐる。米國に於ては市俄古市のみが、此類のことをやつてゐるのである。

市俄古市の美術館は、合衆國内に於ける三大美術館の一である。重要なる美術品の永久的の蒐集と、又數多い多樣に異つた展覽會を、屢々開催することによつて、來觀者をして、美術界の主潮を知り得べき繪畫に不斷に接することが出來る樣にしてある點に於て、實際世界の圖書館の大抵のものとは異つた特色をもつてゐる。一九一七年には七十回の展覽會を開いてゐる。

この制度はこの都市の文化に寄與する點に於て美術館内の分科中著しいものであるが、殊にその内部の圖書館を發達せしめ、有用のものとするところに力を入れてゐる。此圖書館は美術書のライエルソン・ライブラリーを含んでゐる。

美術館の生命の多くは、疑もなく、館内に、最大のものでなくとも最大のものゝ一である美術派を有してゐることである。この大美術館には不斷に夥しい參觀人があるが、このことが聽て近世生活に於て美術が如何に重要なる位置を占むるものであるかを語るものである。而してその來觀者の大部分は外國人であつて、藝術を要する本來の心が彼等をしてこゝに來らしむる。

一九一八年の早春、美術館内美術學校の卒業者によつて、展覽會が催ほされたが、これは之れを計畫した者にとつてさへ一の啓示であつた。而して比較の基礎となる可き他の都市に於ても、展覽會を開いたが、その觀覽人から得た收入は莫大なものであつた。美術學校で學んだ者等の中には、近世藝術に於て傑出した男女ともであるが、世界的名聲を得てゐる者も加つてゐる、此展覽會を開いた團體の中に。加ふるに學校は普通商業的藝術と稱せられてゐる計畫家や、活動家をも生んでゐ

る。而して彼等は多くの点に於て、人生に觸れてゐるから、彼等の位置は重要であつて、美術家よりも劣る者であるとは言ふを得ぬ。

チャール・エル・ハッチンソン氏、此人は多くの方面に於て文化の恩人であるが、卅六年間美術館長として就職してゐる。美術館の觀念と理想とが、此人が自らを打込んで働いてくれるので、合致してゐる。氏は實際一年中毎日、大部分を美術館の中に過し、諸々のより大なる問題を考へ解決を與へてゐる。

美術館の最善の友人等の一人に、ライルソン、ライブラリーを建てたマーチン・エー・ライエルソンがある。氏が美術館に貸附けてゐる古代又は近世の美術品は、その蒐集の點に於て著名なもので、隨つてこの美術館をして各都市の美術館に立ち勝らしむる價値あるものたらしめてゐる。氏が美術館に貢献した、様々の賜物は、特記すべきものであらう。

美術館の顯著なる特色は、ショルヂ・イネス氏が蒐集した繪畫である。功勞ある畫家エドワード・ビイ・バットラー氏が一九一一年に寄せたものである。

ローガン賞基金の寄附者であるフランク・ヂイ・ローガン氏及びその夫人は、美術館に對して、藝術家の立場から計る可らざる重要なるものを加へた。而してこの藝術家の勞作物は、ヨリ大なる諸都市に於て展覽會を開く様になつてゐる。

グードウヰン購入基金の建設者であるウヰリアム・チー・グードウヰン氏とその夫人は、又米國美術に對し同様なる奉仕をしてゐる。

ガンサウラス博士と共に、工場藝術品を展覽してあるフランク・ダフルゥ・ガンサウラスを仕上げた能力あるウヰリアム・エイチ・アイナー氏も、美術館内の美術の題目をヨリ重要ならしむべき種々の要具を寄附してゐる。

米國藝術の友人等（市俄古人市俄古婦人の組織である）は、美術館内に、米國美術を蒐集するため、一の建物を設ける考で、一の群を組織した。既に四十一點の繪畫、六箇の彫刻、卅六點の版畫

が、彼等の努力によつて加へられてゐる。

多くの市民古市民は、男女に限らず美術館に彼等の能力を寄與するに於て特に寛大である。それ等の中には、ブラックストーン館の寄贈者のティビィ・ブラックストーン夫妻、バーンハム・ライブラリー基金のダニエル・エィチ・バーンハムワレス・エル・デェ・ヅルフ陳列室のワレス・エル・デイ・グルフホヰツスラーのエッチングの蒐集者ブリアン・ラソルプ奨學金のブリアン・ラソルプ夫妻、ジョセフ・ブルックス・フエイヤー基金のフエイヤー、ムンガー室とその維持基金のアルバート・エー・ムンガーとアレキサンダー・エー・アッケー、近東の陶器の蒐集者のフランク・ダブリウ・ガンサウラス博士、五萬弗基金のシドネェ・エ・ケント硬玉の蒐集者で維持基金のサムエル・エム・ニツカーソン、その他、エル・グレコとファン・ダイクの蒐集者や基金、奨學金、維持金等の多くの寄贈者の姓名羅別しあるも畧す）、

寒さ二題

○我あとへ來る人の聲寒

○炎を好む我々癖あり冬籠

大阪市に於ける住家の趨勢

迂愚郊邨

大阪市に於ける住宅は、現在約貳萬戸の不足を告げてゐる、と大阪市の當局者は聲明した。斯の貳萬戸を標準とし、以下記述する處の、一世帶平均人口の五人五九を基礎として算出すれば、約拾壹萬餘人といふ多數な人が、其家無きに迷ふてゐる、といふ勘定になる。云ひ換ゆれば、大阪市の人口を靜的に觀て、本年十月一日に於ける國勢調査に現はれし我人口を基礎として概觀すれば、實に、其約十%の數に當る人達が、實質的に、自己生活の本據を有してゐない慘狀に在る、と觀て大した過りはあるまい。大阪市の人口が膨脹し來れる既往の歷史に稽へ、世は不景氣なりと雖も、今尙殷盛な大阪市の產業其他の關係に徵したならば大阪市人口の膨脹率が增々昂まりこそすれ、決して、件の國勢調査上の實數以下に降つてゐるとは奈何にしても考へ得られない。故に、當局が聲明せる樣な、住宅貳萬戸不足といふ事實と、國勢調査上の人口實數を對比して、其處に、生活の安定場所を探してさまよう人達、人生は土地に付ける生活であるのに、事實、土地に附き得ない處の、所謂尻の下も無い人達の拾貳萬人も在るといふ事は、決して誇大な見方ではあるまい。

左すれば、斯の市民人口の約壹割以上に當る處の、謂はゞ、無宿の人達は、一體何處に治まつてゐるであらう?。大阪市の內外には、近來到る處塹壕が掘られてある、けれども、まさか、斯る人達の穴居でもあるまい。一廉の學者や、老いたお姬い樣達が、自分の外に世界も何もない變態戀愛を、いつぱし新し味の神聖がつて、其實、原始的な戀愛に後戻りしつゝあるからといつたつて、穴籠りの原始生活を爲す迄にも、退化はしまい。されば、それ等の人達、全市人口の一割即ち拾人

に一人づつの無宿者は一體何處に呼息を續けるのであらう？。それは、難かしく云はゞ、居住人口密度の濃厚となることであり、平たく申さば、世帶人口の膨脹である。何にしても、其處に、生活上の眞の安定を得ないと共に、思想、風紀、健康、ゝては品性の問題とまで危險な影響を可能的に有つことゝなる。世の事といふものは、見ゆるが儘に於てすら、互に綜錯し接觸し影響して、恒に目まぐろしい涯てしもなき變化を遂げ、其瞬間の現在を、物とか事とか名付けてゐる程、爾く複雜にして、凡ての事が却々單純でないように、斯の宿無しが何處かの人の世帶へ無理に割り込むで、其處に不自然な居住と、交錯せる生活的接觸より生れるものは、果して何であらうか、と考へたならば、其生活の凡てを通じて、寔に怖るべきものゝある事は、件の健康とか風紀とかいふような、抽象的にして單純な云葉で造作なく片付け得るものではあるまい。要するに、斯る無宿者の無理割込な居住生活は、縱むばそれ等の人達が中流以上の人であらとうも、是より生ずる處のかゝる不祥な事象は、大阪の商賣人が、相手一つで御無理御尤もと自ら頭を叩くように、先方次第で妥協はせない、何處迄も普遍な法則即ち生きた法則として見舞ふのである。

斯る關係と影響を有する處の居住問題は、現在大阪市だけでも貳萬戸餘不足といふ大問題となつてはゐるが、扨てそれならば、現在大阪市に於ける住宅消長の實狀は、どういふ狀態であらうか、單に貳萬戸の不足と云つた處で、それは、或る時期に於ける帳尻を覽た決算、其ものに過ぎない。私共は、今少し其內容に立ち入て見なくては、恒に動いて熄まない此の家屋問題の趨向に就て明晰な概念を得難い。仍で、私は、姑く、我大阪市に於ける家屋の現勢に就て幾頁かを埋めてみたい。

先づ、大阪市に於ける家屋の總數を觀るに、最近の調査としては、大正九年十二月末現在に於ける調査が最も新しい、仍で斯の調査に據ると、大阪市の全家屋數は貳拾貳萬五千四拾八戸といふ數に上つてゐるが、斯の中、例へば、學校とか、寺院とか、病院とか、興業場とか、官舍とかいふよ

うな、特殊な建物に貳千百四拾七戸を有してゐるから、是を控除すると、世帶を寄せ得べき家屋即ち住家と認め得べきものが、貳拾貳萬貳千九百壹戸と看て可からう。是を、其前年同期に於ける現在住家數の關係に觀ると、壹千八百參拾九戸を增してゐるが、是は、今尙ほ住宅難の實勢が、約貳萬戸の不足といふ數に徵象されるだけに觀ても、勿論、到底其大勢を緩和する程なものではないっそして、それ等實數の中で、少々面白い現象は、實に空家が可成りな數に上つてゐる事である。即ち大正八年十二月末に於ては、全市僅に參百四拾壹戸の空家に過ぎざりしものが、大正九年同期の現在に於ては、其倍數以上になりて、七百九拾八戸といふものを數へてゐる。是は、聊か勝手の違つた樣な氣持がする、けれども、所謂住宅難といふ現象の中には、勿論、種々な階級と、綜錯せる事實を含むでゐる、と想はれるが、先づ其大勢は、收入と家賃負擔の關係に痛切な利害を有つてゐる處の、中流の中以下な生活者の問題であるから、空家の殖へる事は、必ずしも、住宅難に矛盾する現象ではない、と想はれる。併し、件の調査上に現はれた事象は、其七百幾戸の空家中、遖がに大阪の中心たる東區は僅に參拾五戸しか無いのと、南區の十六戸とは、商業や盛り場の關係上尤な事と承知出來得るが、大觀上、所謂場末と看做さる、北區の參拾貳戸も先づ可いとして、西區の四百六十七戸といふ空家數に至つては、ちよっと解し兼ぬる現象である。調査の上では只實數だけで、其住家の實質やそれの環境奈何抔が判らぬから、是れだけな事で住宅難の矛盾呼はりは、非研究的な態度であるかも知れぬが、攻究を要すべき現象に在ることだけは、注意に値ひするであらう。

是等の現象に次いで、當然考慮に上る問題は、住家と世帶人口との比例である。是は、申す迄もなく、前に記した樣な種々な問題を惹起する處の因子と成るのであるから、頗る注意に値ひすべき事象ではあるまいか。今此處に、それ等の關係を誌すに方り、私の今所有してゐる材料中、人口に關するものは、件の家屋調査期、即ち大正九年十二月末のものに對して、人口は、それに先つ三箇

月前のものであるから、兩者を斷案的に對比する事は、少々こぢ付けるようにも思はれるが、略ぼ其大勢の方面を識ることは、出來得ようと想ふ。仍で、是に據ると、一戸の收容せる世帶は、平均一世帶と二三。即ち一家一世帶を標準とすれば、平均四戸毎に一世帶の過剩、即ち全市五萬貳千八十壹世帶といふものゝ行き場が無いことゝなる。そして、下に誌すように一世帶五人とすれば、實に貳拾六萬人許りの人達が、露天にさまようてゐる、といふ勘定になる。見樣によりては、維れ當さしく、マルサスの食物對人口の法則が家屋の上に現はれたものだ、と云ふとも、敢て牽强附會だと一笑に附するでもあるまい。眞理其ものは唯一だ、そして、それが種々相に現映する迄の事である。併し、理屈は幷うであつても、事實は、まさか、あの露西亞のジヴシイが世帶袋を背負ふて、參々伍々荒野を彷徨するような場面が、我大都市の中に演ぜられつゝある譯でもあるまいから、其落ち着く處は、世帶と世帶人口の過剩、即ちそれだけ密度を濃くする事となるので、果然、件の調査は只今誌した樣に、一戸平均一世帶と二三、世帶人口五人と五九といふ事實を發見した。即ち、國勢調査に現はれた一世帶人口は、平均四人と、五三なるに對し、實に一人と〇六なる過剩を示してゐる。併し、是は、所謂科學的な計算即ち抽象的に又靜的に觀たもので、其箇別的な實際即ち動的に觀るならば、一戸幾世帶と、恐らく幾人の過剩を有してゐるであらう。再び云ふ、住宅難は色々な問題を產む、そして、斯ういふ過剩を生ずるのは是が其問題の一とつ、而も怖るべき禍機を藏してゐる處の問題の一とつで、正純な享樂卽ち幸福な生活を、それだけ脅やかされ、減殺されるのである、蓋し、人生の悲慘事ではあるまいか。私は、今、其槪念を深からしむる爲に、又其內容の細綱を識る爲、左に、世帶と人口の比較表を揭げて、讀者の參考に供しよう。

區別	國勢調査に依る世帶人口との比較			家屋一に於ける世帶及人口		
	現住家屋（空家ヲ除ク）	世帶數	人口	一世帶ニ於ル人口	世帶	人口
西區	六五、九一七	八一、五二五	三七一、二五七	四・五五人	一・二四帶	五・六三人
南區	六八、三四八	八三、〇一五	三七三、九三三	四・五〇	一・二一	五・四七
東區	三五、六二六	四一、七二二	二〇一、四六五	四・八二	一・一七	五・六五
北區	五四、三五九	六六、六〇〇	二九〇、〇五九	四・三五	一・二五	五・三三
計	二二四、二五〇	二七六、三三一	一、二五二、九七二	四・五三	一・二三	五・五九

更に、私は、前に誌せし、我大阪全市に於ける住家を主とし、家屋狀況の內容の一端を識る爲に、左に、それの調査表を掲げて參考に供しよう。

區別	年次	表家 現住	表家 空家	表家 計	裏家 現住	裏家 空家	裏家 計	合計 現住	合計 增減	合計 空家	合計 增減	合計 計	增減	土藏	同上 增減
西區	大正九年末	四二、六六〇	二〇三	四二、八六三	二三、二五七	三八九	二四、六四六	六五、九一七	(一) 五四六	五八七	(十) 四六七	六六、五〇四	(一) 七九	四、〇九	(十) 五三六
區	同 八年末	四五、一六八	九四	四五、二六二	二二、二九五	二六二、三二一	二四五、三七二	六六、四六三	一、一〇〇	一三〇	一三	六六、五八三	(十) 一、一三	三、九五七	(一) 四八
南區	同 九年末	四二、九八一	一三	四二、九九三	二五、三六七	三八九、三六四	二四、九六九	六八、三四八	(十) 一、一〇〇	一六	(十) 一三	六七、二五二	(十) 一、一三	三、四三	(一) 四八
區	同 八年末	四二、七七九	四	四二、七八三	二四、九六九	二四、九六九		六七、一四八		四				三、九九一	

| | | |

密度と、そして、之等の基調より放射線的に種々な社會的問題の發生するを想察せざるを得ない。

參考に、左表を掲げて、一先づ本編を結ぼう。

區別	家屋數	宅地坪數	宅地千坪に繭する家屋數	家屋一軒に割當たる坪數
西區	六六、五〇四	一、九〇六、九一五	三四・八八	二八・六七
南區	六八、三六四	一、八五九、三三一	三六・七七	二七・二〇
東區	三五、六六一	一、一二〇、四七一	三一・八三	三一・四二
北區	五四、五一九	一、六六五、九二七	三二・七三	三〇・五六
計	二二五、〇四八	六、五五二、六四四	三四・三四	二九・一二

★ ★ ★



「住宅」

高師の濱に浮き出た桃源郷

「キヤラバシ園」

郊郵夢人

夢幻境の現實化と
住宅改善問題
の實際化は是れ

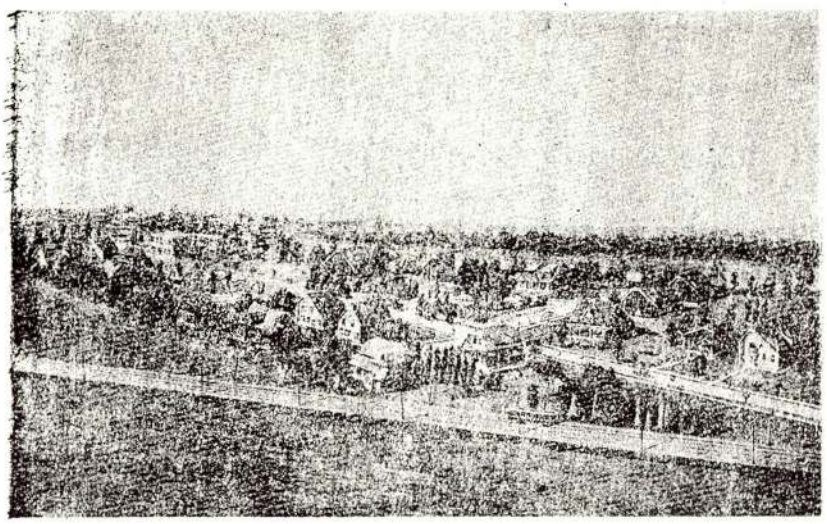
「沖つ波たかしの濱のはままつの名にこそ君をまちわたりつれ」と紀貫之の詠嘆せし今の所謂「濱寺」一帯の綠り成す磯馴松も、謠曲「羽衣」に、紺青の靜かな湛へと白砂の照り榮へる汀と、老幹白苔の松樹とに、天女をも魅して、恍惚たる夢幻の境地を讃き出せし斯の地、今は、文明と文化てふいたづら者が、其處等邊りを引つ掻き廻はした上げ句、何處迄も二一天作の五、いや二一天作の六も八迄も、爪の長さと相談の誤安値な「郊外住宅」といふ奴が、隨分とも、其處等中に出來てゐる一方、由來、立てゝこそ物の用にもなるべく親讓りの膝を、ぽきんと四ツ折りにして土下座生活をやるのは、脛を齧る以上な以ての外なる生活だ、そして、日本服着けて帶を締めないような格構に開けッ放しな日本の住宅は世の進化率か

ら二一天作の四と、ひいき目に見た處で、怎うしても、徐ろ々々南洋土人達の住宅價値位に退化しそうである、といふ、まあーざつと斯うした處の所謂住宅生活改善問題なるものが、近來頻りと賑はつて來た。そして、西洋式がよい、いや、折衷式がよいのだ、折衷と謂はゞ、現實派とでも云ふ樣なものゝ處へ、西洋其儘の眞似は御免だ、左りとて、折衷抔と生ぬるい事では承知が出來ない、西洋も日本もない、吾れは新しい一とつの居住樣式を創造するだ。といふ樣な一種の理想派が加はつて、日本の住宅改善問題は、太平記抔の云ひ草ではないが「卍巴」と入り亂れて、扨てもお賑やかな事である。斯る中に、議論よりも、一足お先きへと、現實派の製作や、理想派の試作が、其處等邊りに、ちよい〳〵浮き出して、屋氣樓ならなくに、而も屋氣樓でも見るが樣な、日本では物珍らしい羽衣式な氣分の住宅が實現するのだから寔に心强く、面白き現象である。曾て、夢人は、本誌前號に「山科鄕のバンガロー」を紹介したが今亦此處に、其一つとして、「キヤラバン園」の所謂理想的住宅を紹介する。

何から何までも素人の設計と直營それだけ亦理想化されてゐる

南海本線「羽衣」驛から分岐して、海岸線「伽羅橋」驛以南に一大展開せる廣袤幾萬坪を包擁して其處に築かれつゝある處の一大Carben cityは即ち「キヤラバシ園」それである。夢人は斯の園に就て語るに先ち、其建設者がCarben cityとして完成されたる「キヤラバシ園」を、奈何に夢幻的な理想化してゐるか、といふことを識る爲、其建設者が畫かしめたる「キヤラバシ園」の豫想圖を此處に揚げよう。

次いで、茲に、我建築界に於ける驚異のレコードとして、而も、建築技能と住宅改善の普遍化即ち一種な民衆化の先驅として、怎うしても、此處に叙記を逸することの出來ないのは、實に斯の、一大花園都市の設計者と、其施工者が、纔に大工抔を外にして、孰れも、專門家でない、只建築の趣味と經驗と研究なる特異を有つてゐる處の素人だから、驚異せざるを得ないと同時に、寔に以て



完成されし「キヤラバシ園」豫想圖

感服の外はない。尚古趣味に生くるには、種々な方面もあるが、古鏡や銅鐸や乃至は勾玉杯の蒐集者として、著名な好古家、而も素封家として知られたる處の、濱寺在山川七左衞門氏の令息山川逸郎氏こそ、其設計者であり、施工者であり、而して其事業の經營者である。氏は、兵庫縣立工業學校機械科の出身であつて其後亞米利加の某大學に學ばれたのだが此處でも、依然機械學殊に自動車を專攻されたとの事である。氏は現に、大阪にもガレージを有つて、自動車事業にも沒頭してゐる。彼樣に、氏は、何處から何處迄も、建築家としては全然畑異ひで、若し、專門家以外を素人といふのならば、氏は全くの素人である。然るに、斯の素人が、此處に揭げた「豫想圖」の如き立派な理想と抱

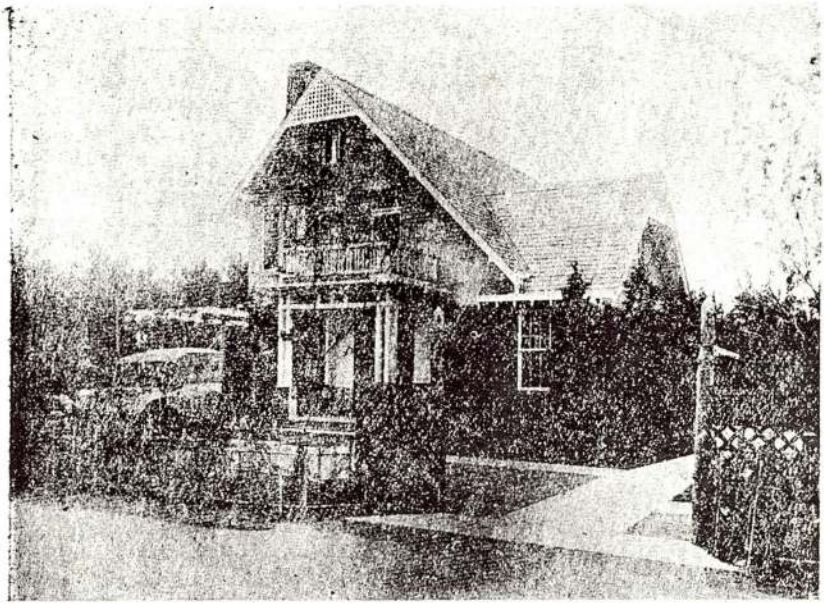


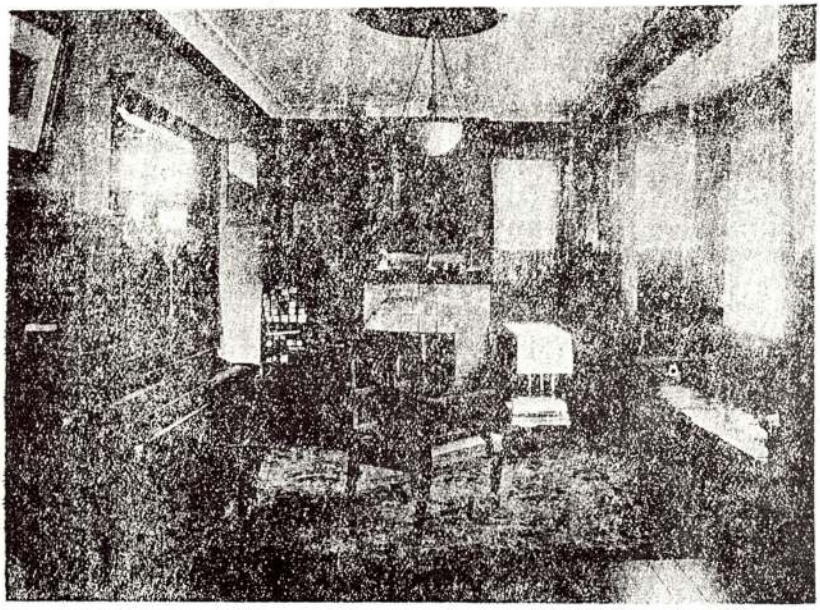
負の下に、住宅問題の心核に觸れた新しい建築を仕遂げられ、專門家も三舍を避くるような一大花園都市を築きつゝある、といふ事は、蓋し、何んたる驚異であらうか。氏は語つた、『私は、性來、家をいじくる事が好きで、しよっちゆう私の居宅抔の普請に携はつた事もあります。併し、私は日本在來の住宅に恒に嫌焉たる考へを有つて居りましたが、殊に、例の清潔法の施行されるときの如き、私は、まざまざ日本住宅の不便と不潔さに考へさせられました。斯うして、一層衝動を受けたのです。——何んですて？、亞米利加で建築學を習つたかといふのですか？……眞實くの處、建築に就ては別段科學的に研究した事はありません、性來建築趣味に生きて來た私ですから、亞米利加に居たときも、只多少眼を惹く建築には、其構造に注意を拂つてゐただけです。斯の「キャラバシ園」の工事も建築家流に云はゞ、所謂直營でありますが、實は、私を初め、技手達も、皆な、專門家ではないのです。大工も、八分方は田舍の大工で其他は大阪から來てゐるのですが、大阪の大工は斯麼洋館建ちで、因襲的に在來の經驗に捕はれ、實は使ひ悪い、それだけ私の理想が少々落ちるようなものですが、兎に角、斯うした少數な例外を除く外は、皆な素人の仕事ですよ』と破顔一笑した。夢人は、氏が何處迄も「素人」といふ寧ろ一つの矜りを以て築きつゝある處の、現在の「キャラバシ園」其ものと、是も亦氏のお手製になつた處の、氏の住宅を二三枚レンズに入れたのであるが、是が、果して、「素人」てふ銘打つた製作として、建築家の眼底に奈何に映ずるであらうか、夢人は、默して、此處に、其作物を掲ぐる事とする。そして、建築の民衆化?!は寔に欣ばしい現象である、ことを申して置かう。

家屋構造の概要と環境設備の綱概

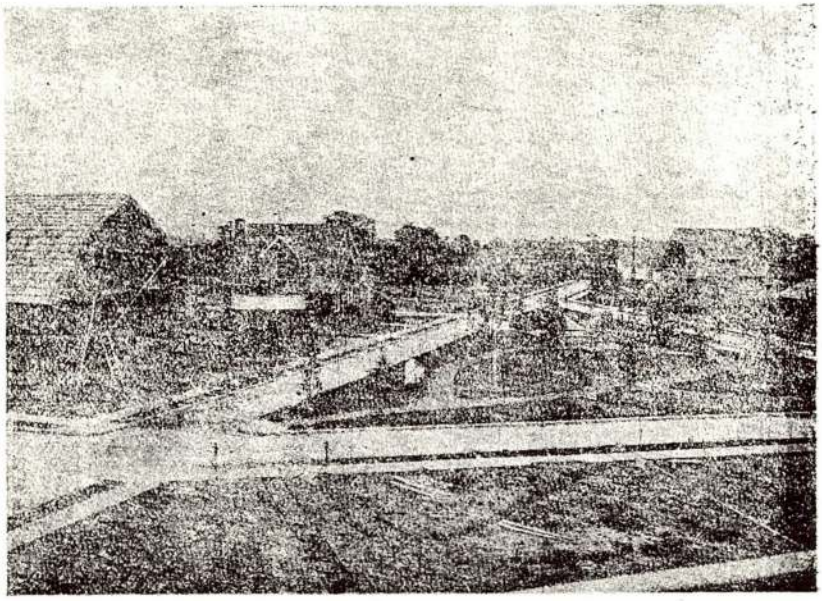
最小なものにして、敷地一百坪建坪拾五坪二階建。今の處で最大なものは敷地二百坪、建坪三拾坪二階建にして、七八室を有してゐる。そして其各家屋は、孰れも地下室を設けてあるのが、何よりも、便利である。殊に、建坪三拾坪以上のになると、地下室に汽罐を設けて、スチイム式の暖

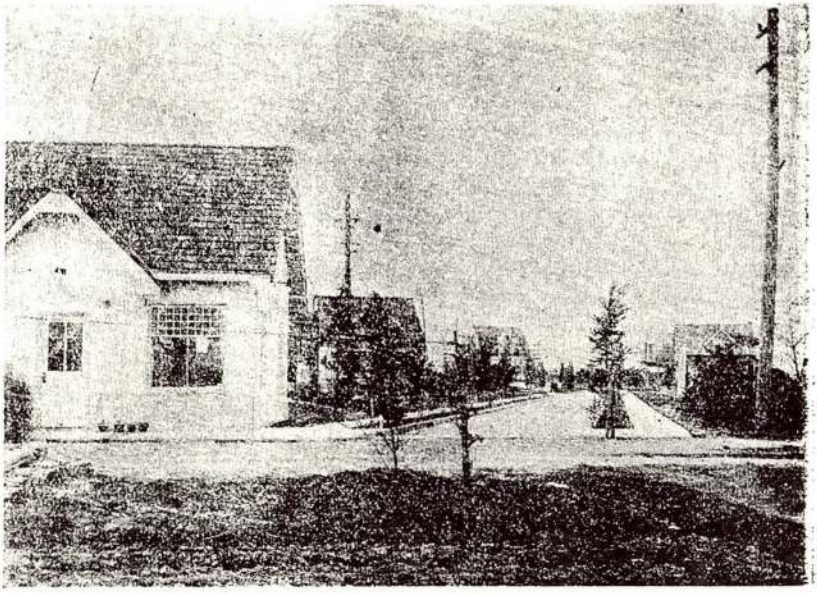
山川逸郎氏新邸（同氏設計）



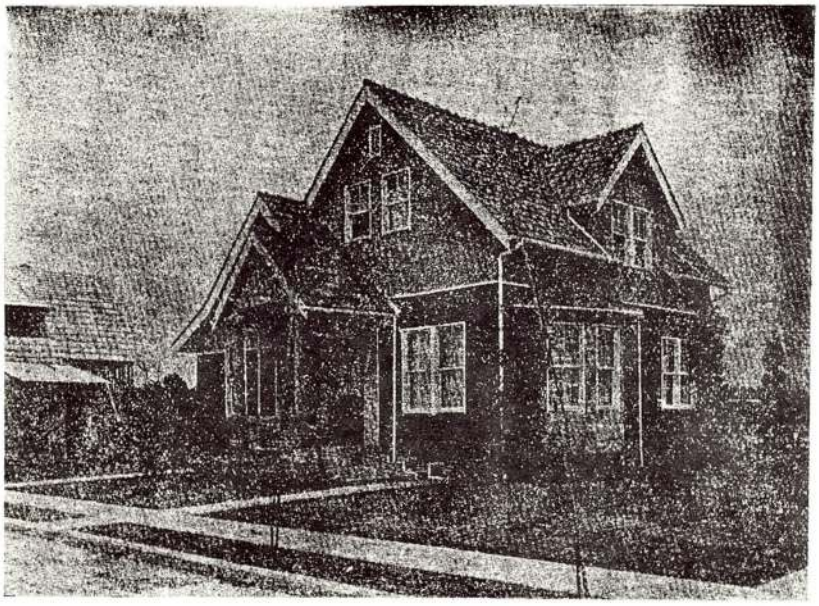


施工中の「キヤラバシ園」

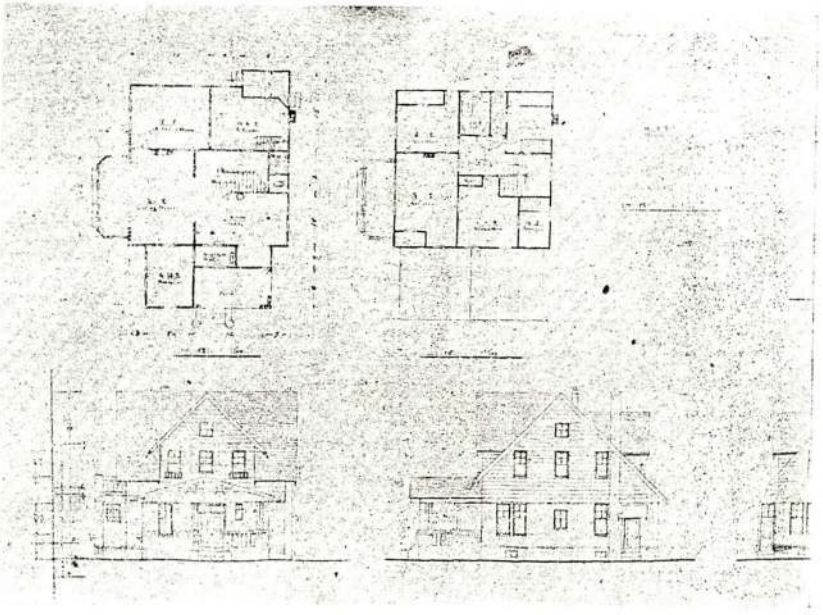




「キヤラバシ園」建物の一つ



圖計設るせ成作の「人素」謂　所



房設備があり、ホットエアのそれがあるのは殊に注意を惹く。上水は、其附近に於ける或地點の清冽な井水を電氣動力で貯水池に送り、各戸の配管を通じて、始終供給されてゐる。殊に、下水設備に到つては其各戸の便所が洗滌式にして、其附近の海中へ放水さるゝ裝置と共に、頗る完備されてゐる。而して、何んでもないようで、其實、郊外住宅として最も意を用ひられた一とつは、各窓出入口に「スクリーン」を張つて、蠅や蚊の侵入を防ぐ裝置である。其他、構造其ものは、全然洋式だが、此處にも、我居住生活の過渡期に在る現在を考慮されて、何時でも、疊敷と成し得るように寸法を取つてゐる事は嬉しい。そして、其環境が、挿入の寫眞で覽る樣に、頗る展開された地點で、其處を、日本の大都會にすら未だ見る事を得ない規矩齊然たる「ペーウィング」鋪裝の道路が、其清洒な線を畫いてゐるのは、寔に氣持がすが々々しい。今は、まだ拓築中だから、多少荒野の感なきを得ないが、其「ペーウィング」の兩邊に樹木を吒と植へて「サイドウォーク」を造る、との事である。其他、園其ものには、樹木や草花の植へ込みに、温室の設備に、噴水池の開鑿に、運動器具の備へ付けに、今は却々の意氣込みと共に目まぐろしい施工中である。

以上は、園主の所謂第一期計畫であるとのことであるが、氏は更に、第二期、第三期の工事に着手するとの事を語つてゐた。夢人は、此處迄斯の新境を紹介したのだが、更に、氏の、所謂住宅問題に對する抱負を質して見た處、極めて無邪氣な、そして、何處となく物腰の低い、非常に良い感じのする氏の態度は、此處にも、何の躊躇もなく其「眞面目なる無邪氣」さを發露して曰く「ありますとも、大いにありますとも」と、微笑以て、其會心の抱負を語つた。併し、それは、氏によりて差出されたる一つの刷り物である。夢人は、惜くも、時間の容さゞる儘、親しく質すことを得なかつたが、歸來、其意見なるものを見るに、頗る肯綮にして奈何にも其新しさを覺へしむる。幷は、何れ本誌を汚すことゝしよう。



講壇

煉瓦に就て

工學博士　大熊喜邦

（畢）

先づ品等は斯の如くにして聯合調査會は五種類にしたが、此度は並燒と上燒は怎う云ふ所で區別するかと云ふに、それは吸水量と煉瓦の強度に依つて區別することが出來る、大體に於ては煉瓦の強度と云ふものは吸水量と反比例する、例へば關東方面の土から拵へた煉瓦と關西方面の土から造つた煉瓦の間には強さに於て、また吸水量に於ても大分な相違がある、全體を通じて關西は關東よりも數等上にある、さうして何れにしても吸水量の少ない煉瓦は強度が多いのですから、大體に於て吸水量を以て煉瓦の燒度を區別して差支へないのである、今實驗上の平均結果を云ひますると、關西の煉瓦に於ては燒過ぎに於て吸水量六、四%から七、八%くらゐ、並燒に於ては八、四%から一三、五%あり、關東の煉瓦は燒過ぎに於て一二%から一五%くらゐ、並燒に於ては一六%から一八%であるが、是等の實驗上の成績から推して上燒は吸水量一四%以内並燒は一八%以内とし吸水量一八%を超えたものは之れを煉瓦と認めないと云ふことにした、是等は實際に於て皆さんが煉瓦

を商人から授受される場合に一々煉瓦の強度を試驗することは到底出來ぬ、非常な手數が掛るから寧ろ強度を知ることの出來る標準である所の吸水量に依つて決めることが簡單であると云ふ所からして煉瓦の強度は吸水量に依つた譯であつて、斯の如くして上燒は強度良好にして吸水量一四%を超えざるもの、並燒は強度普通にして吸水量一八%を超えざるものと云ふ風に區別したが、更に一二等は如何にして區別をつけたかと云ふと、煉瓦は其の燒度と云ふものが同じ物でも燒度以外の欠點の多いものと少ないものとがある、故に夫等をたゞ一種類と認むるは甚だ不利益ですから上燒、並燒共に煉瓦の角度寸法が正しくてヒビと瑾の殆んどないものを一の標準として一、二等に區別した、さうして一等とは形狀良好にしてヒビ、瑾の少なきもの、二等とは形狀普通にしてヒビ、瑾のあるものと云ふ風に決めたが、斯の標準以外のものは總て等外品として取扱ふことにしました。

以上申上げた事柄が即ち新しく定めた所の煉瓦の規格の大要である、尙ほ實際に當つての設計の參考として茲に新舊煉瓦の比較表を掲げたから御覽を願ひたいが、此の表に就て一言せねばならぬのは舊の煉瓦は半枚壁の一坪の面積の箇數は此處に二百五とあるが、皆さんの普通使はれるのは二百十六であつて、之に拘はらず二百五とあるのは是れは七寸五分、三寸三分、二寸と云ふ數に出來たものとしての換算である、さうして之れに比較すると新しいのは二百十四と云ふことになる、殊に新しい煉瓦と云ふものは在來の煉瓦から見ると稍や小さくなつて居る、厚さに於ては異ひないが長さ、幅に於て小さくなつて居る、然らば在來の煉瓦造りの增築や補修の場合には怎うするかと云ふ質問があるが、是れは厚さが在來のものと殆んど相違がないから、左樣な場合にても新しい煉瓦を混せて使つて大した不便はないと思ひます、尙ほもう一言云ひますると、新しい所の煉瓦の一枚半の壁と云ふものは日本尺にして一尺〇六分六厘であつて斯の寸法は市街建築物法の防火壁の寸にキッチリ合ひます、斯う云ふ風にしてお手許に廻したやうな印刷物の如き大きさに決めたと云ふことを申す譯であるが、何うか今まで申した順序に依つて決まつた煉瓦の標準に就て充分な理解を持たれて一日も早く斯の規格に依つて煉瓦を使用せられんことを希望して止まぬ次第であります。

（畢）

木材に就て（畢）

會員　工學士　松井清足

それから長さですが、長さは二メートルを最小として、即ち今までの一間物である、之れに、〇五と云ふ長延をつけて居る、其以下になつて二メートル、四メートルになると、一だけのおまけをつけたのである、次には角材ですが、是れは柱のやうなものに使ふ材料で是れは前と同じやうな意味で現在の二寸六分角くらゐを終として……現在は五寸角くらゐが出來合品の最大であるが、將來は高い家も造らねばならねし、高い家としても木材は制限されて居るが、廣い家であると約六寸角即ち一尺八寸角まで一ッだけ造つた、それで長さは矢張り、二を加へてそれから以下はメートルに依つて進んで行くことにしました、板も同じことで是れは此處にあるやうに上の段が、七と云ふ厚味其次は、九其次は一、二の厚味を有つて居つて上の二ッが本四分板、それからは六分板或は一寸板と云ふ樣になつて居るから、是れも現在のものより統一されて居る、數は減つて居るか知りませぬが、もう是れ以上の必要はないのであつて即ち斯う云ふ工合に大きさを決めた、大體木材の基準寸法はこんな事に依つて出來上つて規則正しき法式の下にメートルに依つて作つたが、次には之れを呼ぶ所の名稱を如何にするかと云ふことである

現在の名稱は何うして附いて居るかと云ふと、現在の名稱は用途を以て附けて居るものと製法或は大きさに依つて附けて行く、即ち穴を突刺して抜いて行くものをヌキと稱し、或は敷居に使ふから敷木と云ひ、板割を割物と云ひ或は二寸角とか何寸角とか云ふことを云ふから、之れを考へて見ると永く將來まで使用して行くには矢張り寸法

を呼ぶのが最も適當な方法である、現在の如き用途に依つて名稱を附けて行くと日進月歩の時代、將來ドン〳〵進んで行くのに對しては伴つて行くことが出來ぬ、即ち敷木が根太に化けると云ふことが起るから、矢張り寸法を呼ぶを適當と考へて居る、四寸角或は板材の七仙或は十五仙と云へば何時でも木材が來ると云ふことにしたいと思ふ、それから次には品等ですが、是れは五ツに分類したのである、即ち丸身である、丸身はどんなになつて居るかと云ふに是れは丸身一割、二割と云つて五割以下までとして、大丸身は五割を超過するものである、挽材は厚味と幅の平均を其の大きさとして其の何割と云ふことにしたのである、それから樹心の有無と云ふとは今までの通りである、それから赤身白太と云ふことがあつたのを之れを統一して斷面積の三割以下のものを最も悪いものとし、全部赤味のものを赤勝と稱し、それ以上悪いものは白いものでも之れを「交」と云ひます、而して特に之れに送り仮名を附けぬのは木材の上にサインを打つ時の都合で斯う云ふ風にしました、また板目、柾目は今までと同じですが、たゞ木理を省いたのは木理は板の變形であつて、たゞ特種のものであるから、一般の品等としては必要でないと云ふ說で木理は省いた、それから節ですが、是れが困難である、今までは小節、上節、無節と云つて居つて無節だけは誰が見ても無節ですが、上節小節は見る人に依つて異ふから此方ちや通り此方ちや通らぬとなつて居つた故に之れに就て何か一ツ標準を立てたいと云ふ註文で調査をしましたが、結局四等までである、無節は爭ひがないが、節一等と云ふのは一平方メートルに五ツまであるのを一等として置く、今までの小節は五ツないと云ひますが、是れは一平方メートルでない、二等は今までのたゞ小節ぐらゐであつて是れは約十と云ふことになる、三等は五センチメートルですから約一寸六分ぐらゐの大きい節で約十と云ふことになる、さう云ふ工合に分けて尙ほ夫れ以上悪いものゝ大きいものゝあるのを節四等としました、それから脫節に就て云ひたいのは、今までのやうな活節とか死節と云ふことは學理上の鑑定がつか

ぬ、樹が立つて居つた時即ち生きて居つた時にあるのを活節、枯れた時にあるのを枯節と云ふが是れは製材する時には判らぬ、愈々議論になると活節死節と云ふことは學理上鑑定がつかぬのと、それに建築上節は附いてさへ居つたら差支へない、脫けて居つたら用途として滿足出來ぬから脫節を一の缺點としたら宜いと云ふのである、大體品等はそれだけで次には檢尺法ですが、是れは今までの方法と同じである、たゞ製法と製材所とに依つて異にしたのを一致したいけで前と殆んど異ひはない、丸太材も前と同じであつてたゞ統一したいけである、それから木材の材積單位である、是れは評價の單位、賣買の單位となるものですが、當地などで安いと思つて買つて見ると六尺の建材と云ふことであるから、是れも日本中は統一する必要があると思つて茲にあるやうに一立方メートルを以て標準としました、一立方メートルと云ふことは大きいと云はれるが是れはたゞ「、（コンマひか）以下」にするだけですから差支ない、殊に獨逸、墺太利、佛蘭西は皆一立方メートルを以て單位として居るから、我國でもメートルとなつた以上は之れを以て單位とするを適當と認めた、尙は過渡期に於て諸君が御記憶さるるに都合が宜い、一立方メートルと云ふと即ち三尺（さんじゃく）と云ふことになる、今までの尺〆三本が一立方メートルと云ふことになるから最も宜い一の方法と考へたのである、それから次には計算方法である、是れも今まで通り角材挽材は斷面積に長さを乘けて行き丸太材は末口の自乘に長さを乘けて行く、是れも種々議論があつたが現在の造林家の云はれるには將來は人工林にになつて來る、人工林になると此くらゐの材積に製材するが理想である、末口の細い程の自乘に長さを乘けて容積とするが自然人工林に適合したものと思ふと云ふことですから、そんなことで少くあつても多くあつても單價に依つて差を生じたら宜いと云ふので斯う云ふことにした、次には木材の結束法であるが、是れは二十五キロ乃至三十五キロとした、今まで何故木材を束にして居るかと云ふと、束にするのは勞働上の經濟からであつて、バラにして居ると一本宛擔いで行つて捗取らぬから

である、けれども亦一束を三四人で持つような大きなものにしては却つて不經濟になる、何うしても一人で擔がねばならぬ、一人の勞力はどれだけ擔げるか考へて見ると、現在では六貫目から十貫目と云ふことになつて居るから、茲に二十五キロから三十五キロとしました、二十五キロは六貫目三十五キロは九貫三百目餘に當るのである。

次には建具雜作の標準寸法に就て云ひますが、是れは西洋風日本風のものに就ての寸法の標準を決めたのであつて、又上等のものでも下等のものでもなく普通なものを標準として拵へました、是は日本建築協會で既に案が出來て居る、東京の學會でも出來て居る、建築業協會でも出來て居る、それを頂戴して出來上つたのが是れですが、是れなら大抵氣に入る、而して是れは簡單ですが、此處にあるは是れから鉋削りをして造る大きさを書いてあるのですから、是を削つて拵へると云ふことを考へたい、さうしてどれほど削るかと云ふと兩面を削る時は約一分五厘を取るものとしてある、是れも諸君方是非御採用を願ひたい、是れは使用するに些とも苦痛はない、直ぐ彼の圖面を書いたら宜しい、或は圖面を書かぬでも宜しい、規格統一の寸法に據るべしとやつたら決して喧嘩が起らぬ、若し喧嘩が起つたら私は大審院までも行きますから是非これに依つて採用を願ひたい、是れはたゞ我々が圖面を引く手數が省けるのみならずこれを澤山使ふのは國家的事業であると考へる、現在住宅拂底と云ふことは到る所の呼聲で住宅問題を云ふと人が耳を振立てゝ聽きに來る、尤も中には住宅を造らうとして居るが、それは勝手放題に造つて居るから、それでは今日の需給を滿足させぬ、最も安い便利な理想の家を供給するには、即ち規格を統一して何所の家もこれを使ふと云ふことにして進んだら、價格の低下と云ふも非常なものである、大阪でも今までのやうに丸太を買つて來て木挽が汗を出して鋸で挽くことは過去つて居る、一の機械鋸で同じ寸法のものを何千となく拵へてこれを供給する時代が到達して居るのである、たゞ之れをやらないのは諸君が使はれぬからやらぬのである、諸君が此の規格統一の寸法材料を使ふと仰しやつたら立所に彼方でも此方でも此の建具を製造しやうと云ふことになる、即ち此の材料を澤山に準備して社會を救ふのは今日の急務であります、諸君も此の狀況を御覽になつて直ぐにでも此の寸法に依つて設計せられんことを希望します。（畢）



〔資料〕

世界三大都市の制度

（畢）

法學マスター・オブ・アーツ士　石川東一

附　華盛頓市制

紐育と共に米國に於ける大都市であり且つ首府であるから序乍ら華盛頓に就て一言する。

華頓盛は市民に參政權無く、從つて自治團體としては存在しないで、中央政府の直轄となつてゐる、即ちコロンビヤ州の一都市として存在してゐるのである。

一千八百七十一年に從來の華盛頓市、ジョージタウン市と華盛頓郡の行政廳を廢してコロンビヤ行政廳を置き知事を首長として大統領及び上院の任命する委員會と市民の選擧する廿二名の議員より成る代議院との二院から成立する立法議會を置いたが、一千八百七十四年に斯の制度を廢止し市の行政は全然大統領の任命する三名の行政委員に任せられる事と成つてゐる。

市の立法機關としては合衆國議會であるが國會は地方的事務の機關としては、ちと大き過ぎるので實權はコロンビヤ區の兩院委員會及び支出査定委員會の副委員會に移つてゐる樣な實情と成つて

ある、是は此等委員を通過した議案は萬に一つも議會を通らなかつた前例もなく且又何等その心配もない事によつても明らかであらふ。

三の行政委員といふのは、大統領が上院の同意を得て三年任期で任命するもので其の中の二名は二大政黨から選出されるのを前例とし、一名は工兵の將校の中から選ばれる事になつてゐる。

委員は委員長を互選し各委員は事務を三分し、其主管する事件に於ては甚大なる勢力を有ち、區行政に屬する官職を任意に廢止し、區雇傭人の數を減じたり任免する事も出來るのである。

併し委員の權限にも公園公有地及び水道の一部は合衆國の陸軍省で管理し、裁判所の判事、慈善局委員は大統領の任命に屬するといふ樣な制限はあるが、それとて僅少な苦痛に過ぎない。委員は歳入出豫算を編製して大藏省に提出せねばならぬが、是は此省の檢閲を得て最後の決定の爲め議會へ廻す順序となつてゐる。此外に委員は警察消防の律令を制定し、建築條例、衛生規則を制定強制するなど命令制定の權限を有つてゐる。

市歳出の一半は合衆國國庫から支辨し一半は地方費で負擔する、地方費の大部分は財産直接稅を以て當てるが、此等課稅準備の査定の爲め一名の主任官と五名の補助官を置いてゐる。

補助官五名中三名は土地建物の査定をし、二名は動産其の他の收入の査定に從ふものである。

警察部は委員によつて命ぜられた警察部長の直接監督に屬し、其の部員の任命昇進などは總て委員の掌中にある。面白いのは、巡査たるべき者の條件として、少くとも二年以上華盛頓市内に居住した者と云ふのだが、身長五呎八吋以下の者は採用しない事になつてゐる。

消防部は同じく行政委員の任命する技師長の管轄になつてゐる。衛生行政は同じく行政委員の任命する保健官の管理に附するが、保健官は勿論醫師でなくては不可だ。斯の部の事務は學校の檢閲生命統計、禁煙法の勵行、傳染病豫防、健康に害ある物の除去、搾乳場、食用獸畜市場、乾物店の有害果物の取締、惡癖或は無鑑札畜犬の取押などをやる。

敎育行政は敎育局の仕事で九名の區の最高判事が、少くも區に五年以上居住した人の中から任命する委員より成立するが、委員は名譽職で三年を一期とする。學校建築は斯の委員が監督し、區の需要品は三名の官吏から成る委員會が購入する、其の中の一名は敎育局の幹事であらねばならぬ。その他學校としての一般政策に關する事は總て局の權限で敎育の爲めの支出の監督及び學校敎員の任命權も同局に屬する仕事である。

巴里

巴里は特別市制を布いてゐるから、一般市制に比し頗る趣を異にして居る。普通市制との相違點を擧げて見ると

1 巴里は選擧した市長を置かず大統領の任命するセーヌ縣知事が其職務を行ふ。即ち市長と同時に知事である。

2 普通市制は千八百八十四年の改正法に據るのだが巴里ばかりは一千八百七十一年の舊法を適用されてゐるのである。

3 普通市會議員半數以上の要求ある時は臨時會を開く事を得るが巴里市會議員は全く其權利無く唯セーヌ縣知事の召集によつてのみ開會する。

4 巴里市は官吏である處のセーヌ縣知事の支配を受け又其市會の議決項目などは他の市會と異る處は無いが事件悉くに對し確定するの權限無く市會の決議は輕重に從ひ知事內務大臣大統領又は議會の認可を得なくてはならない。他の市會が輕微なる事件は直ちに其決議により執行し得るに比し甚だ窮屈である。斯くの如く自治權を狹められたのは由來同市は革命の中心として常に政界變革極まりなかつた爲めであらふ。

5 市會の權限は斯くの如く狹く市有財產の管理法土地若しくは家屋の賃貸契約の條件（土地なれば十八年以下の貸借期限なる時、又他の財產なれば九箇年以下の貸借期限なる時に限る）に限り確定決議を爲す得る位のもので、其他各種の決議に到つては總て知事の同意を經る事を必要とする。

6 特別課稅をしたり或は市債を起そうとする時は議會の協贊を經ねばならぬ。又豫算は必ず大統領の布令を以て認可される事を條件としてゐるのである。

7 巴里の市會は全部民選議員を以て組織するが、巴里市會議員は同時にセーヌ縣會議員となるので、被選擧權は常に兩議員たるの資格を具備せねばならぬ事となる。

8 巴里市會は規則の上では十日宛四回開會される事になつてゐるが、實際は臨時會又臨時會で殆んど常設機關の傾がある。

9 巴里市は廿區に大別し更に一區を四區に別ち大區には大統領の任命した區長と助役を置くが何れも名譽職である。大區の助役は三名と定めてあるが人口十二萬以上の大區では五名とし、各大區長は戸籍吏となり軍事及び財政に關する法律の適用を掾け、徴兵適齡者を審査公布し、直接國稅に關する訴願を受理してゐる。

此外巴里市長たるセーヌ縣知事に對して外に大統領の任命する警察知事があつて市一切の警察權を司るので、巴里が殆んど自治民としての生命を失つてゐるに就ては、色々歴史的の深い關係があつて評論しても見たいが何れ機會に俟つ事とせう

（談、文責在記者）

○ともし火に竹の葉末の時雨哉

○斧の音深くもいらず冬の山



渡歐日記より（三）

會員　工學士　置鹽　章

◎新嘉坡

六月三十一日の夕暮、船は新嘉坡に近いた。市街の高い塔や色々な形の屋根が、コンモリと茂つた森の背景と目の前に展開されて來た。折柄の夕陽に赤く輝いて誠に美しい景色である。

船が港の沖に投錨したのはかれこれ七時頃であつた、各國の汽船が港内諸所に碇泊してゐる。今夜は上陸出來さうもない。其内に英吉利の港務官がランチでやつて來た、おや出來るかなと思ひながら彼の船を去るとき肩を叩いて聞いて見ると、彼は笑ひながら旅券の檢査と檢疫は明朝行ふ積りだと答へた。彼は更に言語を續けて

『今夜は船に泊つた方がよいでせうぜ、夫の方が經濟的かも知れませんて!!ハヽヽヽ』

と大笑した、中々面白い事を云ふ男だ、だが今夜上陸が出來ないで失望落膽した連中が大分に在つ

た樣に思ふ。

七月一日、早朝甲板に出て見ると眞黒な土人の船乞食が獨木舟（カノー）に乘つて船側に集まり、錢を投げろとワメイてゐる、試に十仙を投げると靑い水の中にヒラ〳〵と落ちて行く銀貨を數秒ならずして拾ひ上げて來る、所變れば品變る。寔に常夏の國に相應はしい一種の職業であると思ふ。だが興に乘じて大分に投げ込む連中があるので止められないのかもしれない。

凡ての檢査が濟んで、港内の突堤に横付になつたのは十時半であつた。見るからに物凄い黑坊が群をなして働いて居る。新嘉坡駐在武官の大西海軍少佐に迎へられて自働車上に市内郊外の見物をやる事になつた。道路は廣く平坦でアスファルト敷先以て氣持がよい。商業街の中心に在る領事館を訪ひ、當市の都市計畫及建築條例について尋ねたれども要領を得なかつた。一體領事館などでは此等の問題に對して今少し注意を拂つて欲しいと思ふが、内地でも漸く此二三年來の事だから無理もない事である。

シビックセンターに出るとビクトリヤ記念館や戰役所が建並んで廣場を前にアンダーソン橋が架けられてある新嘉坡河の風致と相對してさすがに此市の中心地となしてゐる。車を馳せて小公園や運動場を歷訪して、土人町支那人町を通り郊外に出る、往還は悉くペーブせられて南側には丈高い大きな實が澤山にブラ下つて居る椰子樹の林や。新しく殖林せられた護謨樹の林が連つて夫々に珍らしい。護謨樹の幹には生々しい斜の傷が付けられて丁度血精用の動物の傷を見る樣な感がする、時間がないので其工場を觀るの餘裕がなかつたが時價低落の影響で斯業者は何れも頗る經營困難であらさうな。好景氣時代の約六分の一以下に崩落して居るのださうな。

◎バンガロー

椰子や護謨の林の間に土人の小屋が散在するのを見る、一寸日本の田舍の藁葺小屋と能似て居る家は頗る粗造で觀る價値もないと云ひたいが、凡て床高く屋根は椰子の葉で葺いて、さて棟は木や

竹の様なもので押へて居る、切妻造のもので平入り造のものもあれば妻入りのもあり、又二三の棟を廊下で連結したのもあるが、何んとなく日本の神明造や住吉造の簡單なものを聯想せしめる事程左様に注目に價するのである。

又カトン海岸方面には美しいバンガローが澤山建つて居る、深いベランダを取つて床を高くし、床下は吹き放しとなつて熱帶に適應した構造であるが、彼の猛烈な白蟻の防禦を考へたものである床下は主として煉瓦造石造等で、上部は木造又は煉瓦造である、外部は白又や淡黄色漆喰で塗られベランダには白と黒又は白と淡青などのダンダラ染のスダレが如何にも涼しさうに垂れ下つて居る屋根は殆んど凡て赤瓦で∧形の薄いもの、日本の本瓦葺の様に葺いてある。多くは切妻造で寄棟、入母屋等もある。

此等のバンガロー式の家は主として外國人の住宅で、庭も廣く芝生が青々として其間に熱帶の草花が美しく咲いて居る。大きな住宅の門は多く煉瓦造か又はコンクリート造で外部を灰色に塗り、上部には鷹とか獅子などの動物の像を乗せたものが多く見られた。郊外の道の兩側の並木や森や林の草も木も皆南洋の温かい自由な空氣を吸ふて、些の束縛なしに思ふまゝに延び〳〵と繁茂して居る。其間を眞黒な土人が裸でブラ〳〵歩いて居る又變な形の二頭の勞牛が、巾廣の短い大きな車輪を持つた荷車を曳かせて黒ん坊が之を御しつゝノソ〳〵と荷を運んで居る有様を見ると、南國の呑氣な趣味が味はれ、あの忙しさうな、大阪や神戸に住ふ私などは如何にもゆつたりした安樂な氣分になつて自働車上いつしか眠氣を催すのである。

◎植物園から博物舘へ

自働車は全速力を以て郊外を馳せて植物園に入るこゝは先頃我皇太子殿下も御立寄になつた處で大して廣くはないが、香港の夫よりも大きく、青葉茂る樹木の間に青い芝生が延びて美しい赤、青黄や紫などの熱帶的強烈な色彩の草花が澤山咲き亂れて居る、其間を數匹の栗鼠が幹から枝に又枝から芝生に上になり下になつて飛び廻つて遊んで

居る。其間を奇麗な羽の大きな蝶がヒラ〳〵と花から花に渡つて居る。彼等は思ふがまゝに、美しき花の甘き密の香に醉ふて舞ふこゝであらう。名も知らぬ美しい小鳥の囀る聲の樹間に聞える邊に腰を下して暫時ウツトリとなつた、大きな棕櫚の木蔭の青草に身を横へて南國の樂園の光景を眺めながら微妙の音樂に耳を傾けながら束の間の樂に耽つたが、いつ迄もこうして居られないので、漸く腰を上げて再び自働車上の人となり、園内の大路を青葉深き並木に沿ふて博物館に馳らせる。

博物館には主として馬來の動植物の標本、物産武器、日用品、其他の器物及風俗等の標本が陳列されて居る。茲で私の最も面白く見たのは古い石器時代の石斧や矢根石や土器や祭禮用の面等である。此等のものは今日迄日本に於て發見せられたものと全く同様で、石器は勿論土器も甚だ相似た點が多く、面の如きも其彩色から髭などの具合が似寄りの點多く　殊に前に述べた土人の小屋に至つては日本古代の建築と其趣きを同じふして居るのは決して見逃す事の出來ぬ事實である。又土人の體軀並びに骨格が我々日本人と全く同一である事も既に研究せられて居るのであるが、曾て建築學上の見地から伊東博士の說かれた大和民族の南洋起原說と日本古代文化に現はれた事項の南洋との密接な關係に就いて私の考へて居た事柄が今日其實際に接して見學の上に生きた學問をしたのを宴に愉快に感じた、此等の點に於て今日の博物館見學は私にとつて最も趣味あるものであつた。

◎市内見物

博物館を出てヲツフル・ホテルに晝食を取り、小憩の後再び市内見物に出掛けた。幸に當地華南銀行に從弟M氏在勤せるを聞き久濶を叙した、同氏の案内で市中を歩く。

とある大雜貨店に入つて日用品を買ひ二階に上らんとするが何處を尋ねても階段らしいものもない。聞いて見ると各階の昇降には皆エレヴエーターを用ひて居るのだそうで一驚を喫した、日本の建築物法ではとても出來ない相談である。

二人乘の人力車に乘つて日本人町に入り籐の

テツキを求めて舊遊廓を歩く、何んでも先頃廢娼を斷行して以來、頗る寂寥を極め僅かに數軒の料理屋があるのみである。そんな處を見物せんでもよいと思ふ人があるかもしれないが、これも見學のためである。丁度電車が來たので乘つて見る、日本のガタ馬車以上に動搖が烈しいので二停留場目で降り、更に自動車を驅つて從弟の社宅に到り茲で久し振りに日本食の御馳走になつた。故國を去つて數千浬、疊の上に坐して箸を取ると、そゞろに望鄉の感が胸に湧く、明朝五時出帆の豫定であるので十時半船に歸る。

◎その雜感

新嘉坡に來て始めて外國に來たといふ感が强くなつた。殊に熱帶氣分の猛烈な物珍らしさは私の頭に强い印象を植え付けた。

日盛に働いて居る、黑ん坊の群を見ると、冷しい風の吹くけれど誠に暑い氣分をそゝる。

さて道路、交通整理、公園運動場等の設備と配置に就いて注意を拂つて居ることは上海、香港と同樣であるが、此市にはフットボールが盛に行はれる關係から相當の廣場が設けられ、又邸宅の庭の一部には少なくともテニスコートの一つは備へられてある。

建築に就いて概觀を擧げて見ると、住宅は大體前述に盡して居るが、公共的建築中タウンホールやパブリックオフイス等には相當の意匠を凝らして居るが他のものはあまり感心すべきものはない工事の施工は上海よりは尚粗雜で惡質の煉瓦にライムモルタルを用ひ頗る亂雜な積み方をやつて居る工事中の鐵筋コンクリート造のものを見たが何れも粗造で地震暴風等がなければ之れでも差支へはあるまいかと思はれる程度で る。樹木はすてきもなく繁茂して居るが見渡す處建築用材として見るべきものもない樣である 唯チーク材のみは白蟻も犯さず、殊に吾々の珍重する處のものであるが、耐久力强く他の木材よりも遙かによいそうだ。そういへば住友男爵邸の一部にチーク材の建物があるが頗る感のよい物である事を思ひ出した

都市計畫に就いての材料を得られなかつたのを

遺憾とする。工場は小なるものは新嘉坡河の兩岸に多少あるが、護謨工場の多くは東北の郊外地に船渠等は西南部に配置され、市内は丘陵を住宅地に海岸の平地を商業地に丁度神戸の夫の如くである。唯いつも羨ましく思ふのは完全に設備された大市場の適所に按配されて居る事である。

◎珍聞か奇談か

早大の三教授連とは時々行動を共にした、由來御連中の事とて到る處何等か話の種を蒔いて歩くかれる。新嘉坡では在新の邦人に案内せられて自動車上市郊外の見物に出掛けた迄は無事であつたそうな。案内者は右呼左指熱心に沿道の風物を紹介して說明大いに勉めたそうである處が行く事數丁叮嚀な且細密な說明者は運轉手の横に坐を占めて一々教授連の返辭を耳にしながら微に入り細に亘つて行くこと數十分、返辭の聲は段々かすかに成り折々寄聲を發するので不審を起し、頭を廻らして車内の樣子を窺ふて見ると、何ぞ知らん！折からの南風に顔をなぶられ漂々乎として南國のバラダイスに御三人共登仙せられたので、そこには三つの大きな死骸が横はつて居た。案内者は啞然として驚いた。考へて見ると先刻の奇聲はT君の鼻の穴から吹き出される處の大鼾聲であつたそうな。

暫くしてM君が大欠伸と共に眼を覺まし、兩隣の死骸を見てサテハとばかりに我に返り、盛んに案内者君に奇問を連發して少なからず彼を驚かしたそうな、それでも無事に一巡視察は濟ましたさうだ。T君は時々夏の鯉が池の面でパク〳〵空氣を吸ふ樣に眼を開いては閉ぢ、閉ぢては開いて居たといふ事であるが、T君に至つては泰然として動かず悠々自動車上から夢の國に遊んで、自動車を降る迄開眼の機を失つて居つたそうな。

船に歸つてからの事である某氏T君の顔を見ながら。

『オイY君！新嘉坡の所感は如何だつたね？』

と聲を掛けた。T君ぬからず。

『なに大した事はないさ、矢張り上海や香港の樣な海岸の所さ』

大いに笑はせたものである。正に一同の眠氣をさました功蓋し第一であつた。

和洋折衷乎歐風直寫乎

（畢）

——一名「出鱈目の記」——

會員　工學士　園部文雄

私共の考へでは日本の東洋に於る地形より見ても、貿易其他の事實より見ても、日本が支那を除いて、立ち行き難いものであるならば國民の大部分をして英米の屬國が英米人の使用者たるに都合のよい樣な敎育を受けさゝず、せめて中學校の半分位は生た支那語を以て正課の外國語たらしめる事が必要ではなからうかと思ふのであります。

これが出鱈目の記の第一篇であります、話は大分迂路を廻り過ぎ脫線に次ぐに脫線を以て生噛りの書生論を長々と致しましたが本論に入る前に最一つ序に脫線して（或は脫線が本論となるかも知れず）歐米崇拜より延て近頃流行の洋行熱に當つて見やうと思ひます。

此の間の講和會議以來洋行熱の盛になつた事は驚くべき程で少々語弊があるかもしれないが全く所謂猫も杓子も洋行でなければといふ形であります、成る程先方は有史以來の大戰亂で古今未曾有の引くり返へりをして居る丈に色んな方面に隨分と異つた現象が現はれて居ましやう、又戰爭中危險であまり交通の出來なかつた所も今日では自由に交通する事を得る便利もありましやう、又戰爭中行きたいと思つて居つても行けなかつたが此の機會に行く事になりそれが一度にぶつつかつたといふ事もありましやう（恰度流水を堰き止めて居つたのが一度に潰壞した樣に）が兎に角平和この方歐米行は一種の流行と見るを至當とする位盛んとなりました。國力が充實してこれが當り前になつたと言へば其れ迄でありますが一面何だか好奇

心にかられて洋行でもしなければ「ハバ」が利かないといふ様な嫌の所もある様であります、嘗て三宅雪嶺博士は何かの雑誌で「洋行を爲て何を得る」とかいふ様な標題で氏一流の書き方をしてあつたが全く態々行つても歸て來て見れば見物遊山に之を加へた丈の人も多からうと思はれるのであります。

無論百聞は一見にしかずで見るに越した事はないといふ事丈は明でありますが何だが改造の世界だとか何とかいふ新しがり屋に一寸雷同して居る様な所もありはせぬかと思はれてならぬのであります。

事實戰爭の結果社會問題は色んな方面に現はれて戰前には全く氣のつかなかつた事柄で戰時、戰後に勃發し考慮、處置をせなければならぬものが大分ありましやう、あれ丈の大戰爭のあつた今日ですから、併し建築其ものから言ふならば軍事的の施設は格別の事でありますが一般建築は戰爭の爲寧ろ破壞されたものが多て特に戰爭の爲何うといふ程の事もなからうかと思はれるのであります

して見れば全く一種の流行の様な氣分も大分ある様であります、雷同性から來た様な所も一寸思はれまして前申した日本人の事大思想とも多少關聯がある様にも思はれます、其證據には歐米へ行く人や歸つた人は馬鹿に持てもする囃しもしまして送別もすれば歡迎もしますが支那や南洋へ行つたり歸つたものは全く知らぬ顏であるのが事實であります、最も支那や南洋は日本の領土の一部分の様に國民一般が見なして居るならば格別でありますが事實は燈臺下暗がりか何かの様にあまり國民の頭に浸み込んで居ない結果の様な處もあるらしく思はれるのであります。

旅行者、歸國者の方から見れば支那や南洋あたりを迂路ついて來たのでは人前に立つて旅行談や見聞談を言ふのが耻しい様に思ふらしい處があるし、聞く方では歐米の事柄ならば耳を傾けるが支那や南洋の事ならばてんで相手にしないといつた様な所もあります。

併しこれが私の甚だ不可思議に思ふ所であつて忌憚なく言はしむれば日本人の雷同性、事大思想

なるものがこゝにも亦發露して居るのではなからうかと思ふのであります。

成る程支那や南洋は文化は遲れて居る所もありましやう、戰亂の爲影響を受けた分量も少いでありましうが吾々日本人としては親類筋の關係があります、氣候風土もよく似て居ります、風俗習慣もよく似た所があります、從て色々の方面に參考になるよい所もあります、然るに歐米許りに沒頭して手近の參考物に一顧をも與れないのは怎ういふ事でしよう？、私が洋行者流に敢て當る所以はこゝにあるのです、識者の御高敎を得れば幸とします、どうか御敎へを願ひます。

（斷つて居きまするが私は未だ洋行したことはありません、金と時間があれば遊びに行つて自分の所說の是非を極めたいと思つて居ますが暇の都合が出來ても金の都合が出來そーにも無く近い將來にはこの所說の研究は出來様にもありません、從つて各所を御歩きになつた人々から見れば或は一顧の價値なき議論かもしれませんが笑はずに御敎示を願ひたいものです）

大分餘計な所ばかり迂路つきまわつて暑苦しいのに管々とつまらぬ事を書き立てましたがこれも要するにこれから入らんとする本論の前提の様なもので（本論の方が却て貧弱で何れが本論だか判らぬ様な事になるかも知れないが）ものであつて、順序として東洋の事を忘れない、又は東洋の方にも見所があるといふ事を言ひたい許りに一寸申述べた事であります。

私の述べたいと思つて居る所は要するに歐風の直寫は日本では具合が惡からうし、さりとて日本古來の儘でも困るだらう、どうしても双方のよい所を搗きこねて理想的のものを案出したいと努力して居るこの頃の趨勢に於て我々の努力の出發點を支那といふ事にしたいといふ事であります。

つまり支那の衣食住といふものをよく研究してこれを土臺にして東西兩洋の衣食住なり習慣なりの内で取るべき美點を加味應用したならばなまいつまらぬ努力をするよりも結果はよくなからうかといふのであります。

少しく實例について說明して見まするど先づ衣

服でありますが支那では衣服として木綿、絹、毛（他にも色んなものがありましやうが代表的のもの許りで申します）、三者を並用して居ます、尤も貴賤貧福の程度により其用ひ方にも相違があります、毛と云ふても毛皮の儘用ふる様な事もありまするがこれを引くるめて言ふのでありますそして其調製の仕方を見ますと日本服と洋服の中間の様なものであります。

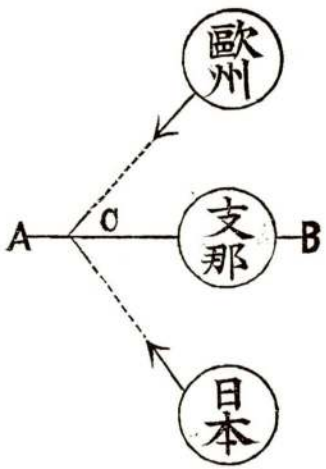
次に食物に就て考へて見ますると支那人は米や饂飩の様なものや豆腐も食へば肉類や「パン」の様なものも食へます、而も其食べ方は箸も用ふれば匙も用ひまして恰度日本食と西洋の食物の中間を歩んで居ります。

住居に就て見ましても木も使へば煉瓦も用ふるし腰掛や、机を用ふると共に疊を敷いた所もあります、これも日本と西洋の中間であります、又言葉の使ひ方でも動詞を先にする所なぞ大分西洋と似て居ますそれも其の筈です支那は日本と西洋の中間に位してあるのだから、そして昔西洋文明の一派が日本へ流れて來る中繼者であつたのですから。

斯様に支那の衣服は一歩左すれば洋服となり右すれば和服となる代物であり、支那食は左すれば洋食右すれば日本食となり、住居も亦洋風と日本風の中間にありまして只今恰度日本で行きつまつて苦しんで居る所の衣食住の三問題の解決をして呉れて立派な和洋折衷を凡ての方面に具體的に示して呉れてあります、それ故に私の考へはこの支那式を土臺にしてこれを改良工夫して行けば世界中最も都合のよいものに早く到達するだらうと思ふのであります、然るに世の中は、可笑しいもので、日本では御隣の支那の爲て居る事を一向見むきもせずして只管歐風の眞似をするが日本風に歐風を加へて何か面白いものを造り出さうとして苦心して居るし、西洋では西洋で日本の文物に興味を有つて何とか應用案出しやうと努力して居ます、それは飛行機も、汽車や汽船もなく小さい船ばかりあつた昔日本より西洋へ行くのに先づ支那に渡つてそれから陸續きに行つた方が樂であるといふ事を考へずに只管太平洋のさかまく波濤を押

し切つて何處かへ渡らうと大いに努力して居る樣なものであつて其苦心、努力の程度はなか〳〵並大抵ではありません、西洋の方も丁度行きつまつた文明を展開さすには何か新材料を引捉へねばならぬといふ所から毛色の變つた日本を見付けてこれから何か絞り出さうとして同じ樣に努方して居ますが昔し「コロンブス」が日本へ行かうと思つて偶然亞米利加を發見した樣に旨く行くや否やが大分問題でありましやう。

恰度この頃の日本人や西洋人の努力の傾向を一寸圖に書いて譬へて見まするならば圖の樣なものになりはしませんでしやうか。



歐洲の端は大西洋で行きつまり（亞米利加は歐洲の出店の樣なものでありますから歐洲に含ますことゝし此處では言はぬ事にします）支那を中間に挾んで日本迄言はゞ隆續きの樣なものであり日本の端は太平洋で行きつまつて歐洲と日本は風俗習慣の兩極端にあります面して支那は歐洲と日本とを結んだ線（直線であるか曲線であるか何か判りませぬが）の中間にあります、そして歐洲の方からも手を出して暗中模索をやつて居るが日本の方からも歐洲の方向を向つて頻りにさなすり廻して居る形であります、是が暗やみの中でさなすり當てゝ手を握り合つた所は何處であるかといへばAB線上のCであつて結局支那とCとの距離の方が日本とCとの距離よりも近いといふ事になりはせぬでしやうか、これの近いといふ事は何も物理書を引張出す迄もなき樣であります、AB線は日本風と西洋風とを融和結合せしめたもの軌跡であつて支那も亦この軌跡上にあるのでありますから最もABの線は圖に書いた樣な位置になるものが又支那とCとの距離は何の位あるものかは疑問で

ありますが兎に角「コロンブス」が亞米利加を發見した時の樣に地球が丸いといふ眞理が存在して居つたりしなくて單に平面的に圖示した樣な程度で考へて見たならばどうも支那を出發點として軌跡線上を歩んで改良、工夫した方が近道だといふ事になりはせぬでしやうか。

これが私の皆樣に判斷して頂きたいと思ふ所でありまして亦本篇の主旨であるのであります。

繰り返し申しますが私は支那式（印度をも含む）を土臺にして工夫、改良するのが一番の近道であらうと思ひます、そして敢て歐米かぶれしてつまらぬ努力をしても歸する所支那式の改良に落ちつくのではなからうかと思ひます。

日本の隣りには支那もあり印度もあるといふ事を念頭に置いて、而も支那も印度も共に我々と同じ東洋人であるといふ事を考へて、尙其上に支那には世界に冠絶する文學があり、印度には西洋の科學と支那の文學と共に世界三絶の一と稱せらるゝ哲學を有する事をも考へ、而して世界三絶の總てを解決するに最も都合のよい立場にあるものは我日本であつてこれ等の問題を解決すべく運命つけられてあるのが吾々であるといふ事をも考へて見れば。

（大正十年九月五日記）

罪は歷史を書き、

善は默然たり。

私共は奈何に住ひましょう？

西崎藥學博士夫人　西崎綾子

その一

一般の日本人が現在營んでゐる日常生活を、もつと簡短に濟ませる樣に仕度いとは、誰でも考へて居る事でありますっ殊に私共の樣な金持ちでない家庭では、一層とその感じを強くして居ます。いくら貧乏でも都會に住んで居らなければならない立場にある私共は、廣い家が求め得られないので、狹くても事の足りる樣な家!!それが無ければ狹くても不足を出來得る丈け省く樣に家庭内の改良をする必要があります。第一が日本の押入れで第二は床の間の改良であります。或る處では三尺の奥行きある押入れに、一尺餘の簞笥を入れてあるので、是非とも奥を明けて置かねばなりませんこんな不經濟な事がありませうか。又た座敷に簞笥や戸棚などをゴト〳〵並べるので、四疊半位の座敷では、殆ど座る處もない位です、此などは考へれば改良を要する所でせう。しかし、從來の習慣を破つて之を改善するとしたら、如何してもお金が入ります。だから、廉く改良する方法を考へねばなりません。安價にして便利なことが必要であります。前の例に就いて言へば、四疊半に押入のない時には、一尺五六寸のかけ出しの押入を拵へ、簞笥から上を、その儘に明けて置く必要はないのですから、手の屆く範圍で、淺い引き出し棚を造つて置くと、鳥渡した外出者は、一襲位は乘せて置けると思ひます。私は餘り着物の數も持ちませんけれど、襟元から足の先まで不調和にする事は大嫌いでありますから、それ故に相應しい一揃は、襦袢も着物も、帶も羽織も揃へて置き度い

と思ひます。前に申した通りに一揃丈を乘せてをけば、出し入れにも手數がかゝらず、出すのが面倒だからと言つて、故更に不調和な物を着るにも及びません、开ふすれば因襲にも囚はれずに、且つ金錢を多く費すこともなく便利で重寶であらうと思ひます。

その二

家庭内での便、不便といふ事は考へ樣ですが、今迄は餘り中流社會の人々が住居に贅澤であつた樣に思ひます。廣い住居は住み心地のいゝ樣に思ひますが、何事も無駄が多い樣です。狹くても居心地のいゝ樣に、食事でもすんで扉一枚開ければ直く後片なが出來る樣に仕度いと思ひます。人手の足りないといふ事は、私には大した問題にはなりません。子供達に書生を付けて置けば我儘をいひますし、それを止せば三人の書生が競爭で庭をはいたり、風呂場に焚付けなどをして呉れます。さふした事は問題にしませんが、簡便な生活を仕樣と思つて電熱應用を仕度いと一寸思ひ付いても便利なことをするには多くの金錢と、いろ〳〵の手數と面倒を要し、その上に直ぐ用向が出來ない樣では困ります。瓦斯や電氣も共同經營でやるとか、市有とかになつて私共へモツと便利を呉れればいゝと考へて居ます。それも我慢するとして、私が一番に不便を感じることは、主人が何か職務をもつたり、官職に在ると人を訪問するにも名刺がモノを言ふので面倒がありませんけれども、細君には何も與へられてないことです。良人の陰になつては居ても同じ樣に力を盡してゐるのに認められないのは殘念です、少しばかり社會の爲めに働き度いと思つて家庭から出歩くと私の名前では通用いたしません。參政權までを欲しいと言ふのではありませんけれど、女でも家庭の主婦でも活動をするのに不便を感じない樣な程度の資格を得度いと望んで居ります。

畫家松魚夫人　田村松枝

その三

東京女子師範學校教授　高桑文子

旅行がしたくなつた時、讀書慾の湧き出た時、子供の敎養と、衣食の世話などゝ言ふ事が想ひ出されます。第一に不自由を感じてゐることは、住居です。よく娘が家を建て直して、澤山の書物の置場を拵へたらいゝなどと申しますが、幷う容易に改善されることなら簡易生活を營み度いと思つてゐます。食物の面倒なども困つたもので、私共の樣に主人が深更まで調べ物をしたり、著述をしたりする家庭では、自然と學校に通學する子供と寢起きを共にすることが出來ませんから食事が幾回にもなり、その度毎に女中に面倒をかけねばなりません。來客がだらしなく居られるのも隨分と困ることがあります。餘裕ある方でもあれば面會日を拵へて置くといふことも自由でせうけれどもまだ私共では、そんなことは思切つて出來ず、原稿の締切りが近寄つた時などはハラ〳〵することがあります、それは自分の家で不便を感じつゝ改良の出來ないことでありますが、親戚の多い私としては、改良仕度いのは、夫れらの交際に費さねばならない多くの時間と、も一つは、法事などの席が長時間を要することです、死者の法要を鄭重にするといふなら方法は澤山ありませうに、種々手數のかゝつた料理に、酒盃が運はれ、飮み食ひして女同士は埒もなく雜談に半日を費します。その上に衣類の面倒も一通りでなく、外出先毎に習慣に應じて相應しい服裝を着換へる爲めにも隨分と手がかゝります、西洋の樣に三枚か五枚かあれば事の足りる樣にしたいと考へてゐます

× × ×

病院を設計する人に望む

東京　S　T　生

世の中に理外の理と云ふ事がある、病院の不淨門は即ち其れである。是れが果して死者に對する禮儀であるか、入院する時は患者も相當に歡迎せられる、併し不幸にして他界の人となると全然調子が違つて來る、勿論最早病院には用のない身體早く引取るが順序である、大抵の病院が表門から死者を出すのを嫌がる風がある、營業としては勿論である事だが併し能く考へて見ると何も裏門か即ち不淨門、（病院は何と云つて居るか知らぬが）から出さずとも堂々と正門から出してよからうと思ふ、是が死者に對する禮儀でなかろうか、病院から死んだ人を出す事が何んで不名譽であるか、今日進歩した、出來る丈けの醫術を盡し充分の看護をして既に天命がなければ是非のない事で（誤診又は手抜かりでなければ）遺族は其病院に對して敬意を表し感謝して居る、且つ死者は既に佛か神になつて居る、其の靈を祀る位の心掛は是迄折角世話をした點から、ありそうなものと、思はれる、そこで寧ろ大玄關から出して且つ病院の職員は全員禮裝して送つてやつてよかろう、是が死者に對する禮儀ではなかろうか。

途中の葬式に出遇つて例令其人が未知の人でも脫帽敬禮をするのは文明國人のする事である、其點から考へたら例令僅かにせよ其の人の生命を預つた因緣がある、あかの他人として棄てゝ仕舞ふのは良い感じがするであろうか、最も醫者にして見たならば呼吸あつて初めて商賣になる、人間で脈が絶れば河岸の鮪と同然であろう。

人を解剖する時は醫者は禮服で執刀するそうである、之れが禮儀である、それなれば死者を出す

に何故に成る可く人目に掛からぬ時間に裏門から出すように餘儀なくするか、是が理外の理で勝手に病院自己本位の理屈をこじ付けた事であろう、患者の遺族は悲哀に滿ちて居る際夜中裏門から（其の位置は必ず不潔な便所又は雇所の隅の方である）或は時として傳染病室の附近等である一出して呉れと云はれた時、血の通つて居るものなれば其苛酷な言葉に無情の感じ斷腸の思ひをするであろう。自分は考へる、病院で萬一不幸死亡した時は其儘退院と云ふ事にして堂々と表門から出る、是れなれば病院で理屈を言ふとは出來まい、又云ふべき筋のものでなかろう。退院後の死亡迄請負ふてもろう義務もなく、又病院も退院後の死亡は緣起を擔いで喜ぶ事であらう、潜るまじきは病院の不淨門である。

声の葉にかくれてすみし我宿の

こやもあらはに冬は來にけり



〔時報〕

◉借地借家調停法案

司法省民事局にて起草中の借地借家調停法案は愈成案を得て内閣に提出したので直に法制局の審議に附し來期議會に提案するといふ其の成文左の如くである。

借地借家調停法案

第一條　土地建物の貸借又は地代借賃其他借地借家關係に付き爭議を生じたる時は當事は爭議の目的たる土地又は建物の所在地を管轄する區裁判所に調停の申立を爲すことを得

當事者が合意を以て前項の區裁判所の所在地を管轄する地方裁判所に調停の申立を爲すことを得

第二條　調停の申立には爭議の實情を明かにし之を爲すことを要す

第三條　當事者が義務の履行を回避する目的を以て濫りに調停の申立を爲すものと認むる時は裁判所は其の申立を却下することを得

第四條　爭議の目的たる土地又は建物が數箇所の裁判所の管轄區域内に存する場合に於て調停の申立を受けたる地方裁判所又は區裁判所を相當と認むる時は決定を以て事件を他の管轄地方裁判所又は區裁判所に移送することを得管轄權なき裁判所が調停の申立を受けたる時又同し

前項の決定に對しては不服を申立つることを得ず

第五條　調停の申立を受理したる時に付き訴訟の繫屬する時は調停終了に至るまで訴訟手續を中止す

第六條　裁判所は期日を定め調停申立人及び相手方を呼び出し且つ調停の結果に付き利害關係を有するものゝ參加を求むる事を得

第七條　當事者又は利害關係人は自身出頭することを要す

但已むを得ざる事由ある場合に於て裁判所の許可を得たる時は代理人をして出頭せしむることを得

裁判所は何時にても前項の許可を取消すことを得

第八條　調停手續は之を公開せず但裁判所は相當と認むる者の傍聽を許すことを得

第九條　費用を要する行爲に就ては當事者の一方又は雙方をして其の費用を豫納せしむることを得

第十條　申立其他の申述は書面又は口頭を以て之を爲すことを得
口頭を以て申述を爲す場合に於ては裁判所書記其の調書を作ることを要す
第十一條　調停に就ては裁判所書記其の調書を作ることを要す
第十二條　調停は裁判上の和解と同一の効力を有す
第十三條　裁判所は調停前調停の爲必要を認むる證人を命ずることを得
第十四條　裁判所が調停の申立を受けたる時は調停委員會を開くことを得
當事者雙方の申立ある時は裁判所は調停委員會を開くことを要す
第十五條　調停委員會は調停主任判事一名及び調停委員二名以上を以て之を組織す
第十六條　調停主任判事は地方裁判所長毎年之を指定す
調停委員は特別の知識經驗ある者に付き地方裁判所長が毎年豫め選任したる者又は當事者が合意を以て選定したる者の中より各事件に付き調停主任判事之を指定す
第十七條　調停主任判事差支ある場合に於ける代理に就ては裁判所構成法を準用す
第十八條　調停委員會は當事會の意見を聽き適當と認むる者をして調停の補助を爲さしむることを得
第十九條　調停委員には旅費日當及止宿料を給す
第二十條　調停委員會に於ける調停手續は調停主任判事之を指揮す
第二十一條　調停委員會の決議は調停委員の過半數の意見に依る可否同數なる時は、調停主任判事の決する所に依る
第二十二條　調停委員會の評議は之を祕密とす
第二十三條　調停委員會は當事者又は利害關係人の陳述を聽き且必要と認じる證據調べを爲すことを得
調停委員會は調停主任判事をして證據調べを爲さしめ又は之を區裁判所に囑託することを得
證據調べに就ては民事訴訟法の規定を準用す
證人及鑑定人の受くべき旅費日當及止宿料は民事訴訟費用法の規定に從ふ
第二十四條　期日に於て調停成らざる時は調停委員會の爭議の目的たる事項及手續の費用に付き適當の調停條項を定め其の調書の正本を當事者に送附することを要す
當事者が前項の正本の送附を受けたる後一箇月以内に調停委員會に異議を述べざる時は調停に服したるものと看做す
調停委員會は申立に依り前項の期間を伸長することを得
當事者が異議を述べたる時は調停委員會は其の旨を相手方に通知することを要す
第二十五條　調停委員會第三條に規定する事由ありと認むる時は調停を爲さゞることを得
第二十六條　調停成りたる時又は第二十四條第二項の規定に依り當事者が調停に服したるものと看做されたる時は裁判所は調停主任判事の報告を聽き調停の認否に付き決定を爲すことを要す
調停認可の決定に對しては不服を申立つることを得ず
調停不認可の決定に對しては民事訴訟法に從ひ即時抗告を爲すことを得
第二十七條　調停委員會を開きたる場合に

於ては第六條及第七條に掲ぐる裁判所の權限は調停主任判事に屬し第八條及第十二條に定むる裁判所の權限は調停委員會に屬す

第二十八條　裁判所は調停が著しく公正ならずと認むる場合にあらざれば調停不認可の決定を爲すことを得ず

第二十九條　調停委員會を開きたる場合に於ては調停は認可決定ありたる時に限り裁判上の和解と同一の効力を有す

第三十條　調停の申立を爲すには手數料を納付することを要す

第三十一條　當事者又は利害關係ある手數料を納付して記錄の閲覽若くは謄寫又は其の正本、謄本、抄本若くは事件に關する證明書の附與を裁判所書記に求むることを得

但當事者が事件の口頭中記錄の閲覽又は謄寫を爲す場合に於ては手數料を納付することを要せず

第三十二條　第十九條の旅費日當止宿料及前二項の手數料の額は勅令を以て之を定む

附　則

本法施行の期日は勅令を以て之を定む

本法施行の地區は勅令を以て之を定む

◉第二都市計畫法

議に内務省は

熊本、長崎、福岡、小倉、八幡、大牟田、若松門司、下關、今治、高知、四日市、岐阜、高岡富山、長岡、濱松、津、横須賀、金澤、新潟、高崎、吳、廣島、岡山、尼崎、宇治山田、大垣前橋、鹿兒島、松山、豊橋、岡崎、大津、高松の三十五市を第二期都市計畫法適用指定地として選定の上勅令案を作成し法制局に廻付して審議中であつたが數の多少につき爭つたのみで結局法制局は原案通り承認したが今度は大藏省が地方財政監督の見地から地方財政救濟の爲地租並に營業稅の一部移讓の議論や義務教育費國庫負擔額增加の問題等が起せる程地方財財逼迫の折柄都市計畫所ぢやあるまいと反對し目下行惱んで居る、何れ内務省が大藏省を說得するか或は閣議で内務大藏兩大臣の妥協を見ない限りは該勅令の發布は難かしいだらう、假令兩省間に交涉解決するも果して内務省の選定通り三十五市全部同時に指定さるゝかどうか是れ亦不明で目下内外重要政務多端の際該勅令發布の時期も當分覺束ないものゝやうだ。

◉大阪市區劃整理

都市計畫の施行に伴ひ宅地としての土地區劃整理の必要が生ずるのは明かで都市計畫法も此目的の爲めに所謂地帶收用なるものを認めて居るが大阪市都市計畫部の意見では地帶收用に依る土地區劃整理は成るべく行はない方針で即ち第一段としては整理の必要ある區劃の土地所有者一同をして組合の如きものを作らしめ整理の設計は市が計畫し此組合をして自ら市の設計に從つて事業を行はしめるが若し所有者達が市の設計通りに行はないか又は組合を作る事を是認しない時には第二段として强制地帶收用を行ふやうにしたいと云つて居る、未だ臆議として決定はして居ないが多分實現さるゝであらうと。



會報

會合

○理事會

△日　時　十月二十五日午後五時半—十時
△會　場　本協會事務所
△出席者　葛野、池田、吉木、小笠原、吉井、橫濱、平井
△記　事　一、秋季大會擧行のこと一、第三回懸賞募集規定の修正一、第二回懸賞圖案審査員打合會の件一、第一回圖案審査員報酬の決定一、會員詮衡一、博覽會々場の件其他

○第二回懸賞圖案審査員打合會

△日　時　十一月二日午後五時——九時
△會　場　大阪倶樂部
△出席者　野村、内藤、久保田、中西、藤井設樂、小笠原、吉井、瀬戸、宗、池田、橫濱、波江、
△記　事　一、審査長及幹事の互選一、審査方針の決定一、審査方法の協議其他

○理事會

△日　時　十一月五日午後五時——八時半
△會　場　本協會事務所
△出席者　片岡、波江、吉木、吉井、小笠原西谷(書記)
△記　事　一、博覽會々場の内定一、財務部招待會の件

○第二回懸賞圖案審査會

△日　時　十一月七日午後五時——十時
△會　場　本協會事務所
△出席者　内藤、設樂、西村、吉井、藤井、小笠原、西谷(書記)
△記　事　一、圖案全部を二部に選別す。

○第二回懸賞圖案審査會

△日　時　十一月十二日午後五時——十時
△會　場　本協會事務所
△出席者　野村、内藤、藤井、小笠原、設樂中西、久保田、吉井、瀬戸、西谷(書記)
△記　事　一、前回に引續き審査を行ふ。尙其嚴正を期せんが爲審査を三部門に分ち各特別審査員を設く

○博覽會財務部招待會

△日　時　十一月十六日午後六時——九時
△會　場　大江ビルヂング大廣間

△出席者
（招待者）
寺西殿（由多加株式會社長）
鈴木殿（東京建鐵株式會社大阪支店長）
佐治殿（佐治製陶所主）
西原殿（東洋電業會社大阪出張所主事）
吉田殿（吉田鐵工所主）
仲井殿（尾張屋商店主）
駒井殿（駒井商店主）
河瀬殿（河瀬商店主）
豊島殿（品川白煉瓦株式會社大阪支店長）
春日殿（住友製銅販賣店）
北村殿（みよし組）
吉田殿（吉田商店主）
清水殿（清水木材店主）
藤村殿（沖電氣株式會社大阪支店長）
土居原殿（銀座建築用品店大阪支店長）
鈴木殿（鈴木製作所主）
高岡殿（日本電飾株式會社大阪支社）
森　殿（新田ベニヤ製造所販賣部）
喜多川殿（大阪硅藻土商會）
若松殿（原安商會大阪支店長）
川久保殿（淺野セメント株式會社大阪販賣所主任）
加藤殿（大野正氏代）
角田殿（三越呉服店大阪支店）
淺海殿（淺海商店主）
（委員）小林、谷、野村、有山、久保田
細原、竹中、阪本、菅谷、須賀
（幹事）瀬戸（委員長）片岡
（理事）吉木、池田、波江、葛野、吉井

△順序　定刻に至り一同食堂に入る。食後片岡副會頭より一場の挨拶あり次で博覽會開設の趣旨及經過につきて報告及各員の援助を希望する旨述べられ會談の後宴を閉づ。

○秋季大會

△日　時　十一月十七日午後五時―九時半
△會　場　大江ビルヂング大廣間
△出席者　田中、土居原、舟橋、井尻、新海
小川、長田、野村、小松、佐藤、
光安、設樂、森本、森、島田、
宮本、佐野、安部、增田、山脇
長尾、中澤、谷、寫永、大原、
川崎、武田、中西、浦、山本、
小林、佐藤、木村、白川、日高
鈴木、池田、布袋、竹中、田中
上瀧、熊取谷、駒井、森下、飯田
野澤、山本、錢高、須賀、橋本
大林、長瀨、久保田、阪本、安藤
大須賀、中原、片岡、葛野、池田
小笠原、吉井、吉木、橫濱、波江
松本、瀨戸、伴野、伴、竹内、
野瀨、平井、鎭西、河合、竹内、
吉岡、中川、船山
（招待者）木子、安井、本田、高橋
（來　賓）大槻、湯淺、岡、山口
（職　員）江村、西谷、武波、山崎

△順序　午後六時一同食堂に入る。食後片岡副會頭の挨拶歸朝者歡迎の辭を述べらる。終つて木子氏の答辭葛野理事長の會務報告、來賓のテーブルスピーチ等ありて午後八時半餘興の活動寫眞に移る。斯くて一同談笑裡に今夕の樂しき會合を閉づ、正に午後九時半。
特に大林義雄氏並に本夕種々御助力を辱うせし各員に篤く謝意を述ぶ。

會　務

△十月二十八日　大林組より「上海新建築



會員伊藤英一氏大正十年九月廿一日逝く。年齒未だ自立に至らず、頗る春秋に富める前途を懷いて、今や長へに亡し。我業界有爲の一人を、今、亦、永劫に喪ふ、痛惜焉ぞ禁へむ。此處に氏の英照と小傳を附し、以て、恭く、哀悼の赤思を捧ぐ。

氏は、大阪市北區佐藤町二十二番地に本籍を有し、大正二年三月、東京高等工業學校附設「工業教員養成所」建築科に業を卒へ、仝年四月二日、市立大阪工業學校教諭に任ぜられ、爾來、育英の事に從ひ、而して終に立たず。

條博の寄贈を受く。

△十一月一日　第三回改良住宅設計圖案懸賞募集を發表す。

第二回改良住宅設計圖案懸賞募集を本日正午を以て締切る。應募總數百三十八通。

△十一月七日　東京警醒社書店より「田園小住家」の寄贈を受く。

△十一月十五日　東京雜草社より「表圖集」の寄贈を受く。

第一回懸賞圖案審査會委員へ審査報酬を贈る。

△十一月十六日　建築士會より「米國ノ建築工事請負契約書類ノ標準書式」の寄贈を受く。

博覽會財務部招待會を開催す。

△十一月十七日　新歸朝者三氏の歡迎會を兼ねて本年度秋季大會を擧行す。

○新入會員

（會　員）伊藤新三郎氏

（特別賛助員）中原英一氏

（普通賛助員）野村紋次郎氏　湊饒氏

○住所移轉

棚橋仁三郎氏　大阪市西區鶴町一ノ乙四〇

增本榮六氏　神戸市生田町一丁目三六

向井雄藏氏　兵庫縣明石郡伊川谷村別府

石川寛三氏　大阪市南區天王寺茶臼山町七九二

佐藤節雄氏　東京市小石川區大塚阪下町七九

岩田丈一氏　橫濱市弘明寺町一四六

三木作二氏　神戸市兵庫松本通八丁目一ノ二六

田中俊助氏　津市下部田一六五九ノ三

河村一太郎氏　東京市本鄉區駒込神明町三四一

中島壽人氏　大阪市西區三軒家上ノ町四〇

小林市太郎氏　兵庫縣加東郡清水寺大塔再建事務所

佐藤四郎氏　兵庫縣川邊郡川西村鶴ノ庄布袋鼻

伊東武夫氏　岐阜市安良田町二ノ四田中方

原田俊雄氏　上海北四川路阿瑞里一一

中村重藏氏　德島市德島町南濱

池田宮彦氏　大阪市南區天王寺茶臼山町七九二

豐島有榮氏　大阪市西區中市岡町二二六ノ四

山上正吉氏　大阪府東成郡住吉村九九九

○寄贈圖書

庭園七、八、九、十、十一號　同協會

住宅　一一號　住宅改良會

建築雜誌　一〇號　建築學會

農家の友　一一號　同社

工業の友　一一號　工手學校內其社

電氣學會雜誌　一一號　同學會

平民建築　一一號　帝國工業數育會

職前建築　一一號　東京高等工業學校

材木新聞　每號　同社

金屬工業新聞　每號　同社

經濟資料　一一號　東京經濟調查會

都市公論　一一號　都市研究會

住宅研究　一一號　住宅改造會

土木建築　一一號　同社

建築世界　一一號　同社

新住宅　一一號　洪洋社

通商彙報　五七號　大阪府立商品陳列所

建築士會々報　三號　同會

電氣評論　一一號　同社

工業評論　一一號　工業評論社

會誌　一〇號　大阪工業會

商工時報　三八號　大阪市商工課

上海新建築條例　大　林組

田園小住家　警醒社

表圖集　雜草社

米國ノ建築工事請負契約書類ノ標準書式　日本建築士會

役員及職員

副會頭	片岡安
理事	葛野壯一郎（理事長）
理事	波江悌夫（主記）
理事	瀨戸文吾（主計）
理事	横濱勉（編輯）
理事	小笠原銅（編輯）
理事	吉井長七（編輯）
理事	池田實
理事	吉木久吉
理事	松本禹象
理事	平井三郎
編輯補	佐藤四郎
書記	江村郊邨
書記	西谷節
書記	武波泰
書記	山崎萬壽夫

會員	二〇五	會員（地方）	七八
名譽贊助員	七一	終身贊助員	五一
特別贊助員	一七	普通贊助員	三四四
合計（十一月二十日現在）			七六六

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁八圓	
	一頁拾五圓	

（別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ）

大正十年十一月三十日印刷
大正十年十二月七日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人 江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
兼印刷人 大阪活版所

印刷所 大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室

發行所 日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第四集 第一二号 掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
小笠原建築事務所
大阪建築所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
木子建築事務所
遠藤於菟
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
片岡松井建築事務所
田中工業所
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
木村組
清水組大阪支店
銭高組
都市工業
山縣組
清水工務店
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所

山田大理石製作所
矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業

日本水道衛生工事
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
東京電気
高田商会銀座販売店
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
東洋工業社
東洋水道木管
鈴木商店
早稲田大学建築学科早苗会
大阪窯業

横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業